



BRIXTON
MOTORCYCLES

Cromwell 1200

ユーザーマニュアル

日本語

このユーザーマニュアルには、重要な安全情報や車両の使い方が記述されています。ご購入の車両を運転する前に必ずお読みください。取扱説明書は車両の運行上不可欠なものであり、車両を再販または譲渡する場合は、必ず車両と一緒に提供してください。

モーターサイクルの慣らし運転について知っておくべきこと

最初の1,600kmは、車両の耐用年数全体の中で最も重要な役割を果たします。この間に適切な慣らし運転を行うことで、長い寿命を確保できるだけでなく、新しいモーターサイクルの性能を最大限に活用することができます。車両に使われている部品は高品質の素材を使用し、精密な機械加工によって作られています。慣らし運転を行うことにより部品の表面がなじみ、スムーズにかみ合うようになります。

注意深く、丁寧に、また忍耐強く慣らし運転を行うことで、お使いのモーターサイクルが安定して走行し、その潜在能力を最大限に発揮できるようになります。慣らし運転中は、長時間の高速走行など、エンジン部品の過熱を引き起こす可能性のある操作を避けることが特に重要です。

具体的な慣らし方法については、「新車の慣らし運転」の項を参照してください。

ユーザーマニュアルに関する重要な情報

危険／警告／注意

この説明書の内容をよくお読みになり、注意事項をお守りください。「危険」「警告」「注意」という言葉は、それぞれの注意事項や指示の重要性を強調するために使用されています。それぞれの定義をよく理解してください。

危険

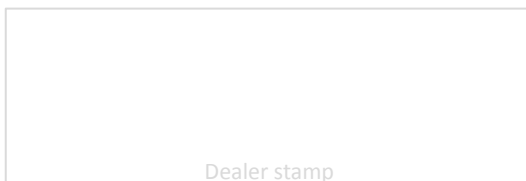
この文言が付いている事項は、ライダーの個人的な安全に関するものであり、従わない場合は怪我を引き起こす可能性があります。

警告

この文言が付いている事項は、バイクの損傷を避けるためのバイクの操作方法を示しています。

注意

この文言が付いている事項は、メンテナンスを容易にするため、または重要な指示を明確にするための特別な説明です。



当社のモーターサイクルをお選びいただきありがとうございます。私たちは、楽しく、面白く、安全なライディングを提供するために、最新のテクノロジーを使用してこのモーターサイクルを設計、テスト、製造しています。ここに記載されている基本を理解すれば、モーターサイクルに乗ることが最もエキサイティングなスポーツの1つとして、ライディングの本当の楽しさを感じられるでしょう。

ユーザーマニュアルには、お買い求めの車両の正しい修理およびメンテナンス方法が記載されています。指示に従えば、バイクの故障を防ぎ、長期間機能させることにつながります。販売店のサービス部門では、訓練を受けた技術者と豊富な工具や機器の在庫を備えており、いつでも高品質のメンテナンスサービスを提供できます。

本書に含まれるすべてのデータ、イラスト、写真、および技術データは、マニュアル発行時点の最新の製品に基づいて作成されています。ただし、製品の継続的な改良や他の領域の変更により、お客様の車両とこのマニュアルの間に不一致が生じる可能性があります。当社の正規ディーラーは常に最新の情報に則ったサービスを提供します。また、当社はいつでもこの内容を変更する権利を有します。

本書では、兄弟車を含むすべての車両バリエーションを網羅し、説明していることに注意してください。したがって、お使いのモデルはここで説明されている標準構成と異なる場合があります。

目次

バイクの慣らし運転について知っておくべきこと		充電レベルインジケータ(バッテリー)	20
ユーザーマニュアルに関する重要な情報	4	ABSアラームインジケータ	20
危険/警告/注意	4	燃料レベルインジケータ/燃料レベルアラーム	21
はじめに	5	機器の機能を設定します	21
目次	6	フロントブレーキレバー	22
安全についての案内	8	スロットルグリップ	22
アクセサリ	8	クラッチレバー	23
修正	9	燃料タンク	24
安全運転	9	ギアシフトペダル	25
安全ヘルメット	9	リアブレーキペダル	25
衣類	9	シートロック	26
操作前	9	ヘルメットホルダー	26
バイクに慣れる	9	サイドスタンド	27
運転技術に関する知識	9	リアショックアブソーバー	27
濡れた路面状況	9	燃料、エンジンオイル、冷却水の使用	28
運転戦略	10	燃料	28
車両識別番号	11	エンジンオイル	28
顧客情報	11	クーラント	28
車両の説明	12	押し入る	29
コックピットの概要	12	推奨最高エンジン回転数	29
側面図	12	ギアとエンジン速度	29
イグニッションキー	13	新しいタイヤで走行します	29
イグニッションスイッチ(メインスイッチ)	13	一定の低速での走行は避けてください	29
機器と操作	13	走行前にオイルを循環させてください	29
計器クラスター	14	最初のメンテナンス	29
ハンドルスイッチ	15	バイクで走る	29
照明制御	15	試運転前の検査	30
トラクションコントロールシステム(TCS)	16	試運転前のチェック	30
クルーズコントロールシステム	16	バイクの基本情報	31
運転モードの切り替え	17	エンジンを始動します	31
インストールクラスターディスプレイ	17	冷えたエンジンから始動します	31
方向指示器	17	ドライブモード	31
油圧警報インジケータ	17	エンジンが暖まった状態で始動します	32
エンジン速度制御	18	バイクに乗る	33
燃料噴射制御	18	トランスミッションをシフトする	33
速度表示	18	上り坂を運転中	34
ハイビームコントロール	18	ブレーキと駐車	34
トリップメーター	18	定期的な保守点検	36
クーラント制御	18	ツールキット	36
運転モードインジケータ	19	燃料タンクの取り外しと取り付けのクイックガイド	36
トラクションコントロールシステム(CSインジケータ)	19	燃料タンクの取り付け	37
	19	潤滑ポイント	37
ギアインジケータ	19	バッテリー	37
クルーズコントロール表示	19		
盗難防止装置	19		
時間表示	20		

バッテリーの取り外し	38	錆びの発生についての注意点	60
バッテリーの取り付け	38	錆びを防ぐため	60
エア・フィルター	39	クリーニング	61
フィルターエレメントを交換する手順	40	バイクの洗車	61
排水ホース	41	清掃後に確認してください	62
スパークプラグ	41	輸送	62
スパークプラグの検査	41	バッテリーの使用方法	62
スパークプラグを交換します	42	技術仕様	64
モーター・オイル	42	メモ用のスペース	67
オイルレベルのチェック	42		
オイル交換	43		
オイルフィルターエレメント	44		
クラッチレバーの遊び	45		
微調整	45		
大幅な調整	45		
アイドル回転数	45		
蒸発ガス抑制システム (EVAP)	46		
クーラント	47		
クーラントレベル	47		
クーラントを交換します	47		
燃料ライン	47		
ドライブチェーン	48		
ドライブチェーンの検査	48		
ドライブチェーンの清掃と注油	49		
ドライブチェーンの調整	50		
ブレーキシステム	50		
ブレーキフルード	51		
ブレーキパッド	52		
ブレーキディスク	53		
タイヤ	54		
タイヤの空気圧と荷重	54		
タイヤの状態と仕様	55		
ヒューズとリレー	56		
トラブルシューティング	58		
点火系の点検	58		
モーターが動作しません	58		
ストレージ	59		
バイク	59		
燃料	59		
モーター	59		
バッテリー	59		
タイヤ	59		
バイクの表面	59		
保管時のメンテナンス	59		
保管後のバイクの使用	59		
防錆	60		

アクセサリー

モーターサイクルに取り付けるためのさまざまなアクセサリーが市販されています。ただし、当社は、市場で入手可能なすべてのアクセサリーの品質と適合性を直接確認する立場にありません。不適切なアクセサリーはライダーを危険にさらす可能性さえあります。したがって、アクセサリーは特に注意して選択してください。市場で販売されているすべてのアクセサリーの適合性を確認することはできませんが、当社と契約する正規ディーラーは、市場で入手可能な高品質のアクセサリーを選択して正しく取り付けをお手伝いします。

アクセサリーと取り付け方法を慎重に選択するために、アクセサリーの仕様と取り付け方法を知るための一般的なガイドラインを下記に用意しました。

<p>危険</p> <p>不適切な付属品の取り付けや車両の改造は、モーターサイクルの操縦性を変化させ、事故を引き起こす可能性があります。不適切な付属品は決して使用せず、すべての付属品が正しく取り付けられていることを確認してください。使用する付属品および部品はすべて当社の純正部品である必要があります。付属品と部品は正しく取り付けられている必要があります。何か問題がございましたら、正規販売店または当社指定の整備工場にご相談ください。</p>

- 重量が増加したアクセサリーや風にさらされやすいアクセサリーはすべて、車両のフレームと重心のできるだけ近くに、またできるだけ低く取り付ける必要があります。ラゲッジキャリアとそれに取り付けられた部品がしっかりと取り付けられていることを注意深く確認する必要があります。そうしないと、重心が移動して危険です。付属品を取り付ける際は、左右のバランスと取付強度に特にご注意ください。
- 装着したアクセサリーの最低地上高や傾斜角が適切であることを確認してください。不適切な取り付けは両方の安全率を低下させます。付属品の取り付けが不適切だと、操縦が困難になったり、運転中に危険が生じることがあります。アクセサリーのサイズは、空気抵抗と操縦時の安定性に直接影響します。衝撃吸収、ステアリング、制御などの機能システムの通常の動作を妨げないように特別な注意を払う必要があります。
- ステアリンググリップやフロントフォークにアクセサリーを装着すると、アンバランスが著しく、ステアリングの柔軟性が低下し、前輪の振動が発生し、ハンドリングが不安定になる恐れがあります。ステアリンググリップやフロントフォークに装着されるアクセサリーは、できる限り軽量である必要があります。
- フロントガラス、バックレスト、サドル、ラゲッジラックなどの部品は、風にさらされると走行が不安定になりやすく、特に横風や大型車両に遭遇した場合に顕著になります。付属品が不適切に取り付けられたり、設計が不適切な場合、走行の安全性が損なわれます。
- アクセサリーによっては、ライダーの着座位置が通常的位置からずれてしまうため、ライダーの可動範囲が制限されるだけでなく、ライダーの操縦能力も制限されます。追加の電装アクセサリーにより、電気システムに過負荷がかかる可能性があります。極度の過負荷により配線が損傷し、走行中にエンジンが停止したり、バイクが発火したりする可能性があります。

荷物を輸送するときは、荷物をできるだけ低く、フレームにできるだけ近づけて固定する必要があります。固定が不十分だった場合、重心が高くなり危険な上、バイクの確認も困難になります。搭載する荷物のサイズは、モーターサイクルの空気抵抗と操作性に影響します。車両の両側の荷物のバランスをとり、車両に確実に固定してください。

修正

車両を勝手に改造したり、純正部品を取り外したりすることは、モーターサイクルの走行の安全性を保証できない上、違法となる恐れもあります。改造を行うと、車両のオーナーは品質保証を受ける権利を失います。

安全運転

モーターサイクル・ライディングは非常に興味深く、エキサイティングなスポーツです。ただし、ライダーと同乗者の安全を確保するには、いくつかの特別な予防措置も必要です。これらの注意事項は次のとおりです。

安全ヘルメット

最初のステップは、ライダーを保護するための安全性と品質基準を満たしたヘルメットを選択することです。頭部損傷はモーターサイクルの事故の中で最も深刻です。車両に乗るときは、必ず規格を満たしたヘルメットとゴーグルを着用してください。

衣類

ゆったりとした服装は安全ではありません。モーターサイクルに乗るときは、できるだけ高品質で体にぴったりとフィットする服装を選んでください。

手術前

「操作前の確認」セクションの指示をよくお読みください。ライダーと同乗者の安全を確保するために、指示に従って項目を1つずつ確認し、忘れないようにしてください。

自分の車両に慣れましょう

安全なライディングの基礎となるのは、ライディングスキルと、車両についての十分な知識です。モーターサイクルの機械的特性や操作に完全に慣れるまでは、交通量の少ない開けた場所で練習してください。練習すれば必ず上達するというのを覚えておいてください。

運転技術に関する知識

常に自分の運転能力の範囲内でモーターサイクルに乗ってください。事故を避けるために、自分の走行能力の限界を理解し、能力を超えての走行はしないでください。

濡れた路面状況

雨の日の制動距離は、晴れの日の2倍になることに注意してください。横滑りを防ぐため、車線境界線、明るい車線、油の多い車線での運転は避けてください。踏切、金属製の柵、橋を通過するときは特に注意してください。道路状況が明確に判断できない場合は徐行してください。

走行にあたって

モーターサイクル事故のほとんどは、走行中に他の車両が前方のモーターサイクルに追突することで発生します。そのため、車など他のドライバーに自分の存在をアピールすることが重要となります。

日中の広い道路でも、反射材を使用した目立つ服装をしてください。
他のドライバーの死角を走行しないでください。

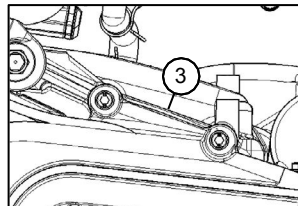
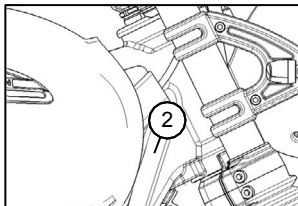
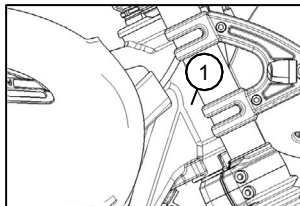
車両識別番号

1. ステアリングヘッドには車両識別番号(VIN)(1)が刻印されています。
2. 識別プレート(2)はフレームの右下にあります。
3. エンジン番号(3)はクランクケースの左側に刻印されています。

車両識別番号

タイププレート

エンジン番号



1. ステアリングヘッドには車両識別番号(VIN)(1)が刻印されています。
2. 識別プレート(2)はフレームの右下にあります。
3. エンジン番号(3)はクランクケースの左側に刻印されています。

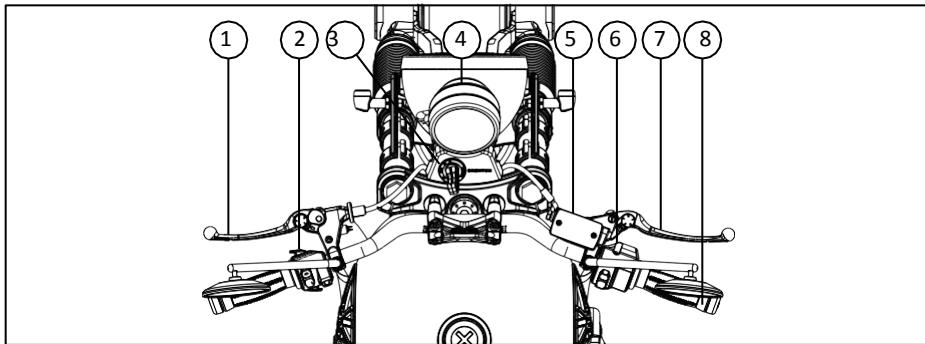
1. 車両識別番号: _____

2. タイププレート: _____

3. エンジン番号: _____

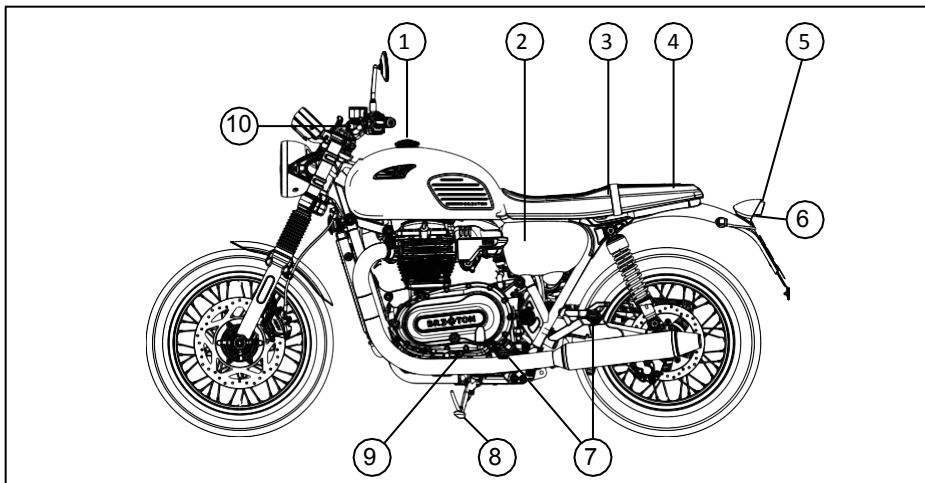
車両の説明

コックピットの概要



- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. クラッチレバー | 5. フロントブレーキフルードリザーバー |
| 2. 左ハンドルスイッチ | 6. 右ハンドルスイッチ |
| 3. イグニッションスイッチ
(メインスイッチ) | 7. フロントブレーキレバー |
| 4. ダッシュボード | 8. スロットルグリップ |

側面図



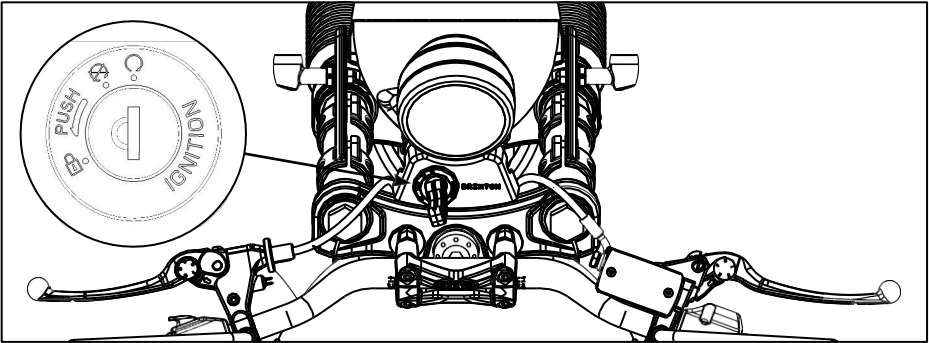
- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. タンクロック | 6. ナンバープレート灯 |
| 2. エア・フィルター | 7. ライダー/パッセンジャーフットレスト |
| 3. ヒューズ/バッテリー | 8. サイドスタンド |
| 4. オンボードツール | 9. ギアレバー |
| 5. ブレーキとテールライト | 10. クラッチレバー |

イグニッションキー



車両にはキーが2つ付属します。片方はスペアキーとして大切に保管してください。小さなナンバープレートがキーに同梱されています。参考としてプレートに記載されている番号をメモしてください。

イグニッションスイッチ(メインスイッチ)



" Q " - (オン)

点火回路が接続され、いつでもエンジンを始動できます。スイッチがこの位置にあるときは、キーを取り外すことはできません。

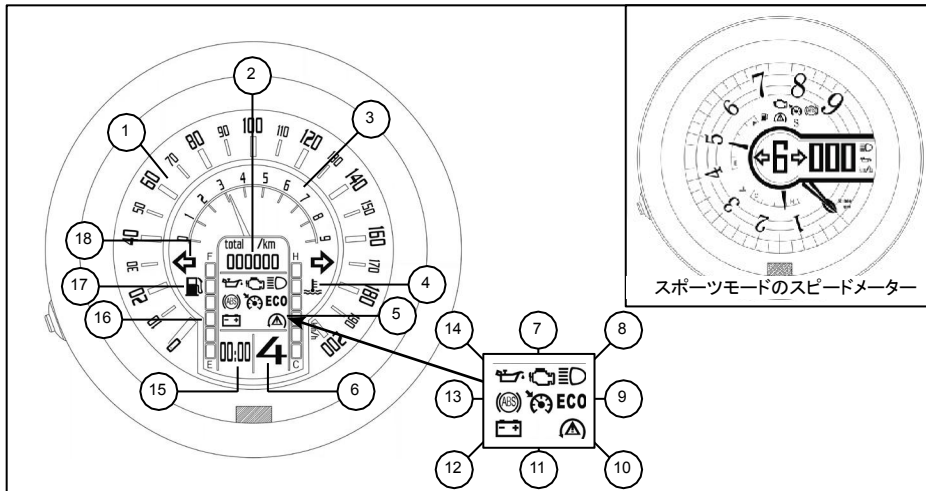
" ☒ " - (オフ)

点火回路が遮断され、エンジンが始動できなくなります。キーは取り外し可能です。

" Ⓜ " - (ステアリングロック)

ステアリングをロックするには、まずハンドルバーを左にいっぱい回し、キーを「 ☒ 」の位置まで回して押し、次に反時計回りに「 Q 」の位置まで回します。キーは取り外し可能です。すべての回路が開いています。

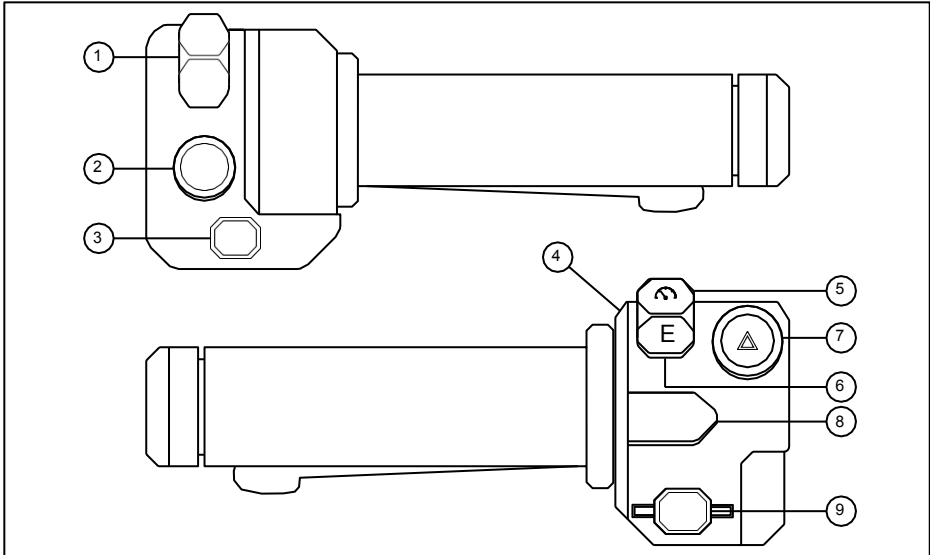
ダッシュボード



- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 速度表示 | 10. ASRチェック |
| 2. オドメーター | 11. クルーズコントロール |
| 3. エンジン回転数 | 12. 充電レベル制御 |
| 4. クーラント警告 | 13. ABS表示灯 |
| 5. 冷却水温度 | 14. オイルレベルチェック |
| 6. ギアインジケーター | 15. 時間 |
| 7. EOBd - エンジン制御 | 16. 燃料レベル |
| 8. ハイビーム制御 | 17. 燃料レベル表示灯 |
| 9. ECOモード | 18. 方向指示器 |

このバイクにはスタンダードとスポーツの2つのライディングモードがあり、ライディングモードごとに異なるディスプレイが表示されます。

ハンドルスイッチ



- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. エンジンスタートスイッチ | 6. モードスイッチ |
| 2. ASRスイッチ | 7. ハザード(非常灯)スイッチ |
| 3. ヘッドライトスイッチ | 8. ホーンスイッチ |
| 4. デイマースイッチ | 9. ウィンカースイッチ |
| 5. クルーズコントロールスイッチ | |

照明制御

- ヘッドライトスイッチがオフの時は、デイトタイムランニングライト、マーカーライト、ナンバープレートライトが点灯します。
- デイトタイムランニングライトは消灯し、ヘッドランプスイッチをオンにするとハイ/ロービーム、前後ポジションランプ、ナンバープレートランプが点灯します。
- ヘッドランプスイッチがオンの場合、デイマースイッチでロービームとハイビームの位置を切り替えることは、ロービームとハイビームを切り替えることを意味します。
- 左ハンドルパースイッチのヘッドライトフラッシャー(パッシングスイッチ)を押すとハイビームが(押したときだけ)点灯します。
- ハイビームがオンの場合、ダッシュボードのハイビームインジケータが常時点灯します。
- ハザード(非常灯)スイッチを押すと、左右のウィンカーが同時に点滅します。
- ウィンカースイッチを押すと、対応するウィンカー(方向指示器)が点滅します。
- ウィンカーが点滅しているときは、それに応じてダッシュボードの左右の方向指示インジケータ・ライトが点滅します。前後ブレーキをかけるとブレーキライトが点灯します。

警告

- ウィンカー(方向指示器)の1つが損傷しているか、正しく取り付けられていない場合、もう1つの方向指示器がより高い頻度で点滅します。
- すべてのライトが点灯しない場合は、ライトのヒューズが損傷していないか確認してください。
- コントロールユニットが取り付けられていない場合、ブレーキランプは点灯しません。
- ブレーキフルードが入っていない状態でリアブレーキをかけても、ブレーキランプは点灯しません。

トラクションコントロールシステム (TCS)

TCSは、主にトルクを制限することにより、バイクがグリップ係数の低い道路を走行しているときに駆動輪の空転を防止します。

- TCSはデフォルトでオンになっています。
- TCSスイッチを3秒以上押し続けるとオフになり、機器のTCSインジケーターが点滅します。TCSを再びオンにしたい場合は、3秒間押し続けてください。
- TCSがオフになっていない場合、前輪と後輪の速度差が大きいとシステムがトルク出力を制限し、ディスプレイのTCSインジケーターが点灯します。

警告

TCS をオフにする場合は、慎重に行ってください。

クルーズコントロールシステム:

バイクにはクルーズコントロールが装備されており、使用前に有効にする必要があります。

アクティベーション方法は次のとおりです:

メインスイッチをオンにし、ストップスイッチをドライブモードにし、クルーズコントロールスイッチを3秒間押し続けると、ディスプレイのクルーズコントロールインジケーターがオレンジ色に点灯し、クルーズコントロールが正常に作動します。デフォルトでは、クルーズコントロールは無効になっています。

クルーズコントロール機能を使う:

クルーズコントロールが作動し、車速が30~160km/hの範囲にあり、1~6速ギアが入っている場合は、クルーズコントロールスイッチを短く押します。

バイクがドライブモードの場合、電子スロットルグリップを回すとバイクが加速します。電子スロットルグリップを戻すと、バイクは以前に設定された速度で走行します。

次のアクションのいずれかが実行されると、クルーズコントロール機能が無効になり、パッシングモードになります:

- ブレーキを使う
- ギアをシフトする
- クラッチを切る
- クルーズコントロールスイッチを短く押す
- REVポインターがレッドゾーンの範囲の限界を超えた時
- TCSがトルク出力の変動を検知した時
- 電子スロットルの信号に異常を検知したとき
- 車速がクルーズコントロールで設定した速度を30 km/h以上上回った時

クルーズコントロールシステムが停止状態になるには:

- クルーズコントロールスイッチを3秒間押し続けた時。
- バイクが転倒してしまった場合。(センサーにより判断)
- メインスイッチ(イグニッションスイッチ)をオフにするか、ストップスイッチを「オフ」の位置のままにした場合。

警告

- クルーズコントロールは、道路状況が良好な場合にのみ使用してください。
- 巡航速度は3km/hまでの許容範囲があります。
- エンジン回転数を2000～5000rpmに保つことをお勧めします。

ドライブモードの切り替え:

この車両は、異なるダッシュボードを備えた2つのライディングモード(標準/スポーツ)で利用できます。

- スタンダード・モードではディスプレイ上に「ECO」と表示されます。
- スポーツモードでは、ディスプレイに「S」が表示されます。
- モードスイッチを3秒間長押しすると、モードが変更されます。

インストルメントクラスターディスプレイ:

ダッシュボードには2つの種類のディスプレイが表示されます。ディスプレイはドライブモードに応じて自動的に選択されます。

方向指示器:

ウインカーインジケータは緑色に表示され、ウインカーの点灯と同時に点滅します。

油圧警告インジケータ:

油圧警告インジケータが赤色で表示されます。

- バイクが始動していないときは、インジケータが点灯し続けます。
- 通常の状態では、バイクを始動すると油圧警告インジケータが消灯します。
- 油圧が低下してバイクを始動すると、油圧警告灯が点灯し続けます。

警告

- 始動後、油圧警告灯が点灯した場合は、直ちにオイルの状態を確認してください。
- エンジンオイルが使用条件を満たしているにもかかわらず、始動後も油圧警告インジケータが点灯する場合は、ケーブルが損傷していないか確認してください。

機器と操作

エンジン回転数について

エンジン回転数は標準モードとスポーツモードの両方でディスプレイ内に表示されます。0～6.500rpmまでが標準範囲で、6.500～9.000rpmがレッドゾーンとなります。

警告

車両の運転は通常のエンジン回転範囲内で運転することをお勧めします。

電子制御燃料噴射装置

- 電子制御燃料噴射装置に異常があった場合、インジケータが黄色に点灯します。
- バイクが始動していないときは、インジケータが点灯し続けます。
- バイクを始動するとインジケータが消灯します。
- バイクを始動してもインジケータが点灯し続けた場合、電子燃料噴射システムの故障を示します。
- インジケータの点滅は、システムが自動的にフライホイール・アジャストメントを実行していることを示します。

警告

- 電子燃料噴射システムに異常があると表示された場合は、お買い求めの販売店に速やかにご相談ください。
- フライホイール・アジャストメントは、コントロールユニットが最初に取り付けられたときのみ、自動的に行われます。水温が80℃に達したらエンジン回転を引き上げて、その後アイドル回転数に戻すという作業を行い、フライホイール・アジャストメントが完了するまでにこの手順を3回繰り返します。

速度表示

スタンダード・モードのスピード・インジケータはポインターで表示されます。速度の表示は0～200km/h、または0～140マイルの範囲となります。スポーツ・モードのスピード表示は、3桁の数字で表示されます。

ハイビーム・インジケータ

ハイビームインジケータは青色で表示され、ハイビームがオンの場合は連続点灯します。

警告

対向車がいるときや、前方の車両に続いて走行しているときは、ハイビームをオンにしないでください。

トリップメーター

トリップ/オドメーターは、スタンダード・モードでは6桁(小数点以下1桁)で表示され、トリップ/オドメーターのシンボルがディスプレイに表示されます。積算計はキロメートルでディスプレイ上に表示されます。スポーツ・モードではトリップ/オドメーター記録は表示されません。

クーラント制御

スタンダード・モードでは、冷却水温度がグリッドで表示されます。スポーツモードでは、冷却水温度がゲージで表示されます。

- スタンダード・モードでは、水温計は0～4個の白色のドットで残量を表示します。
- 5個目のドットが点灯すると同時に、クーラントコントロールインジケーターが赤色に点灯します。
- 6つのドットがすべて点灯するとすぐに、クーラントレベルインジケーターがすべてのグリッドドットと一緒に点滅します。
- 冷却水温度信号が失われると、冷却水制御インジケーターが点滅し、グリッドドット1～6が段階的に点滅します。
- スポーツモードでは、冷却水レベルインジケーターが白色になります。
- 冷却水温度インジケーターが5グリッドに達するとすぐに、冷却水制御インジケーターが赤色に点灯します。
- 温度が上昇し続けると、冷却水制御インジケーターが点滅します。
- 冷却水温度信号が失われると、冷却水制御インジケーターが点滅し、冷却水温度ポインタがCとHの間で変動します。

警告

冷却水温度インジケーターが点灯した場合は、車両の冷却システムに問題があることを示しています。すぐに車両を停止して冷却水と冷却ファンの動作を確認し、できるだけ早く修理を依頼してください。

走行モードインジケーター：

スタンダード・モードは緑色のECOマークで表示されます。スポーツモードはオレンジ色のSマークで表示されます。車両の現在のモードに応じて、モード表示も自動的に切り替わりません。

トラクションコントロールシステム(TCSインジケーター)：

TCSインジケーターが黄色に点灯します。常に点灯している場合は、TCSが駆動輪によって伝達されるトルクを制御していることを示します。点滅している場合は、TCSがオフになっていることを意味します。

ギアインジケーター：

ニュートラルギアNの記号は緑色で表示されます。他のギア1～6のシンボルは白色で表示されます。

クルーズコントロール表示：

クルーズコントロールがアクティブな場合、インジケーターは常にオレンジ色に点灯します。クルーズコントロールがオンの場合、インジケーターは緑色に点灯します。

盗難防止装置：

盗難防止装置インジケーターは赤色に点灯します。盗難防止装置が正しく作動しない場合、または盗難防止装置がセットされていない場合、盗難防止装置インジケーターが点滅します。盗難防止装置の設定が成功すると、インジケーターが消えます。イモビライザーインジケーターはキーをオフにしてから24時間以内に点滅します。盗難防止装置インジケーターは、キーをオフにしてから24時間後に点滅が止まります。

警告

- 盗難防止装置の自動設定がうまくいかない場合、車両を始動することはできません。
- 盗難防止装置と車台番号の間には関連性があります。したがって、キーを交換する必要がある場合は、キーを車台番号と照合する必要があります。
- 他のキーによる読み取りエラーを避けるために、1 つのキーのみを使用することをお勧めします。

時刻表示:

スタンダード・モードでは、時刻は24時間単位で表示されます。スポーツモードでは時間は表示されません。

充電レベルインジケータ(バッテリー):

スタンダード・モードでは、バッテリー電圧低下警告灯が赤色で表示されます。バッテリー電圧が11Vを下回ると、インジケータが点灯し続けます。スポーツ・モードでは、バッテリー電圧低下警告灯は表示されません。

警告

- このマークが表示されているときは、バイクを始動することはできません。
- 走行中にこのマークが表示された場合は、充電システムに異常があることを示しています。直ちにお買い求めの販売店に連絡し点検を受けてください。

ABS警告灯

ABS警告灯が黄色に点灯します。メインスイッチをONにするとABS警告灯が連続点灯します。ABS警告灯は、車両の速度が5km/hを超えると消灯します。走行中にABSシステムに異常が発生すると、ABS警告灯が常時点灯します。前輪と後輪の速度差が大きい場合、システムは自動的にABSをオフにし、ABS警告灯を常時点灯させます。

警告

- ABSシステムに異常がある場合は、お早めにお買い求めの販売店に連絡し、点検を受けてください。
- タイヤを空転させる(パンアアウトする)と、ABSシステムがオフになる可能性があります。

燃料残量表示灯 / 燃料残量警告灯

- スタンダード・モードでは、燃料レベルがグリッド(6グリッド)で表示されます。グリッド2~6では、燃料残量表示灯が白く点灯します。車両の使用を続けると、燃料レベルがグリッド1に表示され、燃料残量警告灯がオレンジ色に変わります。この時、タンク内の実際の燃料量は約4リットルです。バイクの使用を続けると、燃料残量警告灯がグリッド1とともに点滅し、この時、タンク内の実際の燃料量は約2リットルになります。
- スポーツモードでは、燃料レベルがポインター(5つのグリッド)で表示されます。グリッド2~5では、燃料残量表示灯は白色です。車両の使用を続けると、燃料レベルがグリッド1に表示され、燃料残量表示灯がオレンジ色に変わります。この時、タンク内の実際の燃料量は約4リットルです。車両の使用をさらに続けると、燃料残量警告灯がグリッド1とともに点滅し、この時、タンク内の実際の燃料量は約2リットルになります。

ダッシュボードの表示や機能を設定する**メートル法とヤード・ポンド法を切り替えます：**

イグニッションをオフにし、キースイッチを2秒以上押し続けると、メートル法とヤード・ポンド法が切り替わります。機器がしばらく暗くなると、スイッチオンのアニメーションが表示されます。

走行距離計(トリップ)と総走行距離計(オド)を切り替えます：

時間設定モードではない場合は、イグニッションをオンにし、キースイッチを短く(1秒間)押し切り替えます。トリップメーターは指定された走行距離(キロメートル)を表示し、オドメーターは新車からの合計積算走行距離(キロメートル)を表します。

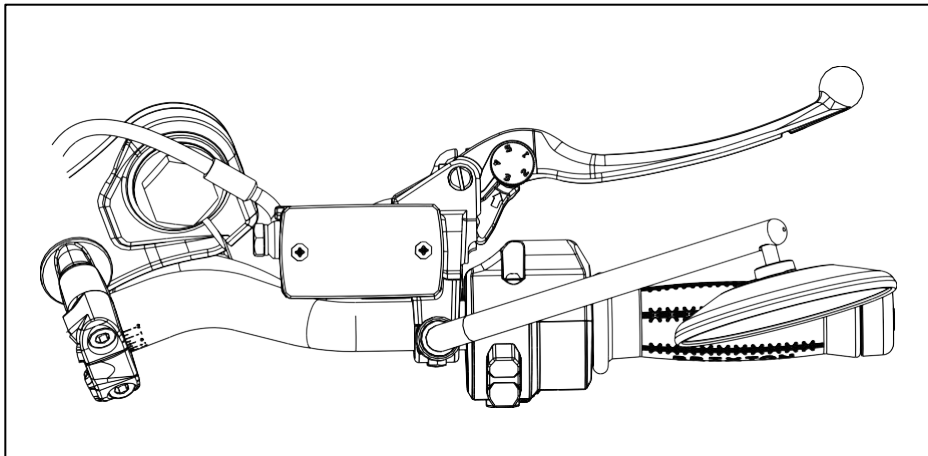
トリップメーターのリセット：

イグニッションをオンにし、トリップメーターモードでキースイッチを2秒以上押し続けることで、表示をリセットすることができます

時計の設定：

イグニッションをオンにし、ボタンを3秒以上押し続けると(オドメーターが表示されている間)、時間表示が点滅し始めて時間設定モードに入ります。ボタンを短く(1秒間)押すことで、設定を行います。ボタンを放した後、ボタンを3秒以上押し続けると分設定モードに入り、ボタンを短く(1秒間)押すと設定が行われます。時刻設定中に長時間操作がなかった場合、時刻設定を終了し、現在の設定を保持します。

フロントブレーキレバー



ブレーキレバーを握ってフロントブレーキを作動させます。ブレーキランプが点灯します。前輪ブレーキには油圧ディスクブレーキを採用しており、制動に大きな握力を必要としません。

フロントブレーキレバーの調整

スロットルグリップとフロントブレーキレバーの間の距離はノブで調整できます。ノブを調整し、フロントブレーキレバーを前方に押し、アジャスターを適切な位置に回します。フロントブレーキレバーの位置を変更するときは、アジャスターが正しい位置で止まっていることを確認してください。グリップのショルダー面は調整面と一致している必要があります。

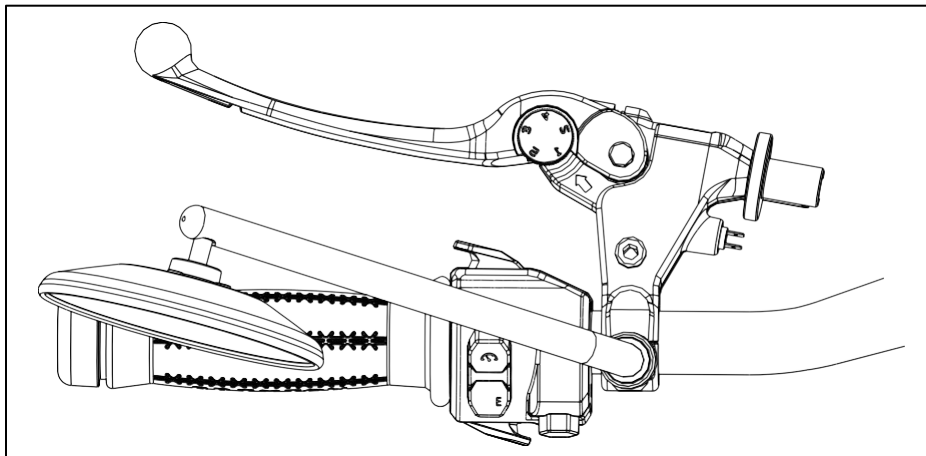
危険

走行中にフロントブレーキレバーを調整するのは大変危険です。ハンドルバーから手を離すとモーターサイクルの制御が著しく困難になります。乗車中は常にハンドルバーに手を添えてください。

スロットルグリップ

スロットルグリップはエンジン回転数を制御するために使用されます。後ろに回すと加速、前に回すと減速します。

クラッチレバー

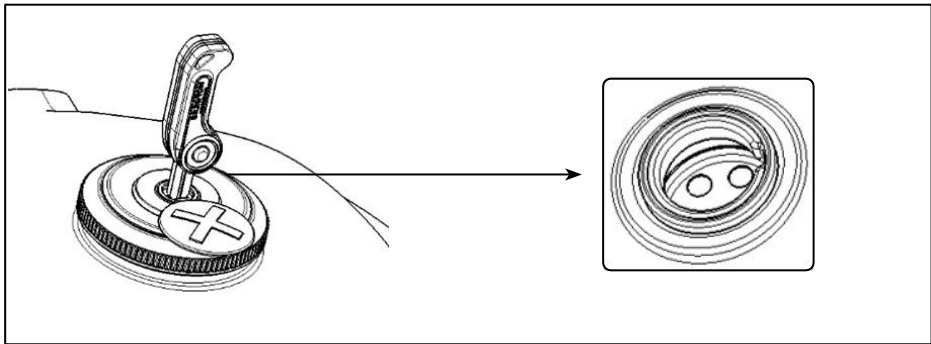


エンジン始動時、ブレーキ時、ギアチェンジ時にクラッチレバーを握るとクラッチフリクションディスクが切れ、動力伝達が遮断されます。

注意

クラッチレバーにはクラッチスイッチが装備されています。セルフスターターを使用する場合、正常に始動するにはユーザーがレバーを握る必要があります。

燃料タンク



燃料タンクはシートの前にあります。燃料タンクキャップを開けるときは、鍵穴を覆うカバーを回して、鍵穴にキーを差し込み、時計回りに止まるまで回して、燃料タンクキャップをキーごと取り外します。キャップを挿入するには、キー付きキャップを燃料タンクのフィルターネックに挿入し、「カチツ」という音が聞こえるまでスロットに沿って押し込みます。キーは元の位置に戻すまで取り外すことはできません。次にキャップを回して鍵穴を覆います。

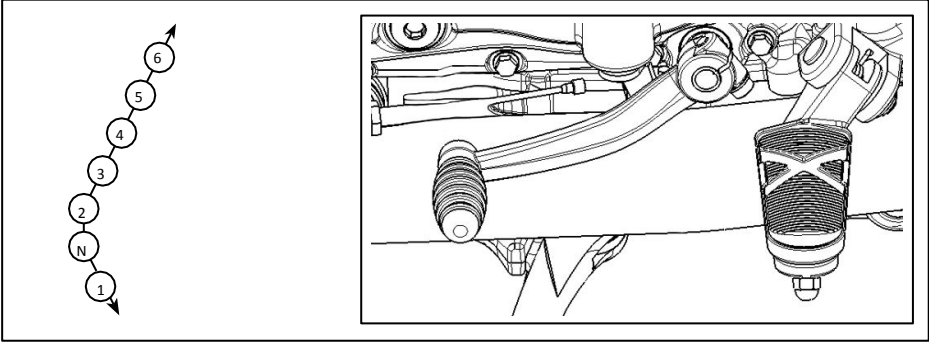
危険

- あふれ出た燃料が高温になったエンジンに振りかかるのを避けるため、燃料を入れすぎないでください。燃料のレベルは、図に示すように燃料キャップの中の底面を超えないようにしてください。そうしないと、熱膨張により燃料が漏れ、バイクの部品が損傷する可能性があります。
- 給油するときは、エンジンを停止し、イグニッションスイッチを「」の位置に回してください。煙や火気を近づけないでください。
- 給油の際には、確実な保護措置を講じる必要があります。そうしないと、火災が発生したり、給油者が燃料ガスを吸入したりする恐れがあります。燃料を補充する場合は換気の良い場所で行い、燃料漏れによる事故を防ぐためにエンジンが停止していることを確認してください。喫煙をしないでください。近くに熱源や火気がないことを確認してください。燃料からの蒸気の吸入を避けてください。子供やペットが給油しないようにしてください。

注意

燃料タンクへの水の浸入を防ぐため、燃料フィルターキャップを高圧水ですすがないでください。

ギアシフトペダル

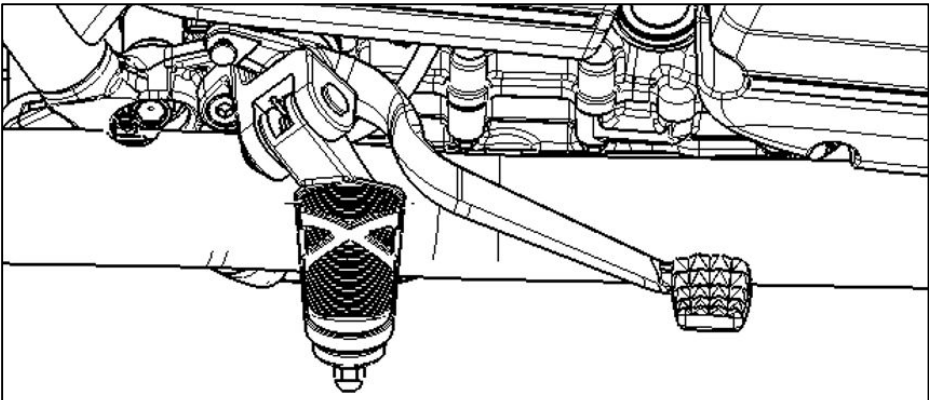


バイクには6速ギアボックスが装備されており、その動作は図に示されています。ギアが接続されると、ギアシフトプレーンは自動的に元の位置に戻り、次のギアにシフトします。低いギアにシフトする前に、バイクの速度を下げるか、エンジン速度を上げてください。より高いギアにシフトする前に、バイクの速度を上げるか、エンジン速度を下げて、トランスミッションシステム要素や後輪の不必要な摩耗を避けてください。

注意

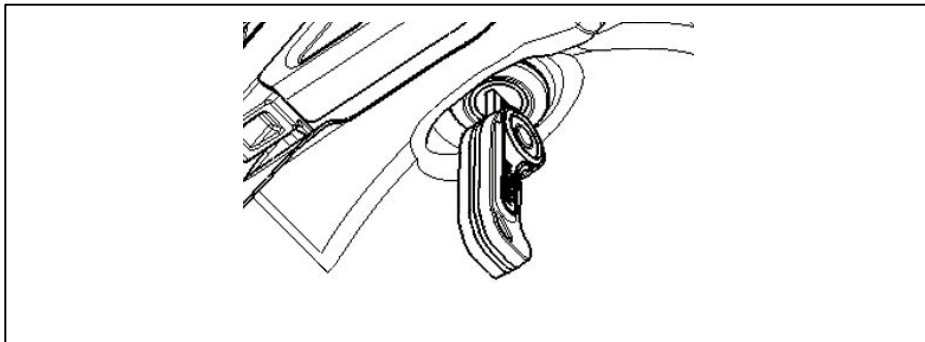
ギアがニュートラルにあり、ニュートラルインジケーターが点灯したら、ゆっくりとクラッチレバーを放して、本当にギアがニュートラルに入っているかを確認してください。

リアブレーキペダル



リアブレーキペダルを踏むとリアブレーキがかかります。

シートロック

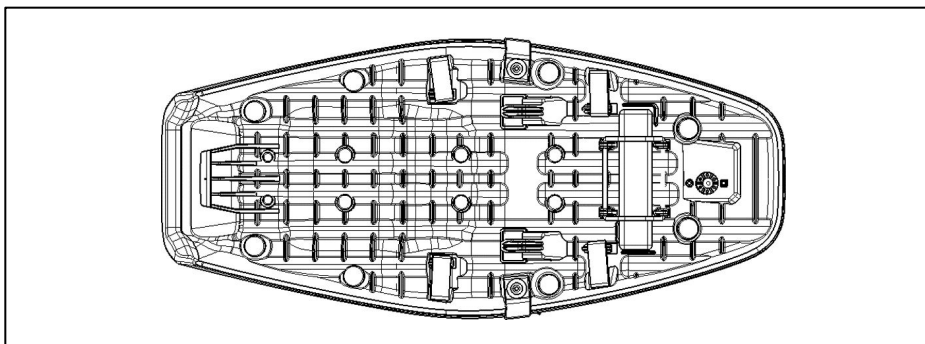


鍵穴にキーを差し込み、時計回りに回すとロックが解除され、シートを取り外すことができます。シートを取り付けるには、シート前部の2本のピンを対応するスロットに挿入し、「カチッ」と音が鳴ってシートがロックされるまでシート後部を押します。

危険

シートが正しく取り付けられていない場合、シートが滑ってバイクのコントロールを失う可能性があります。シートが正しい位置にしっかりとロックされていることを確認してください。

ヘルメットホルダー

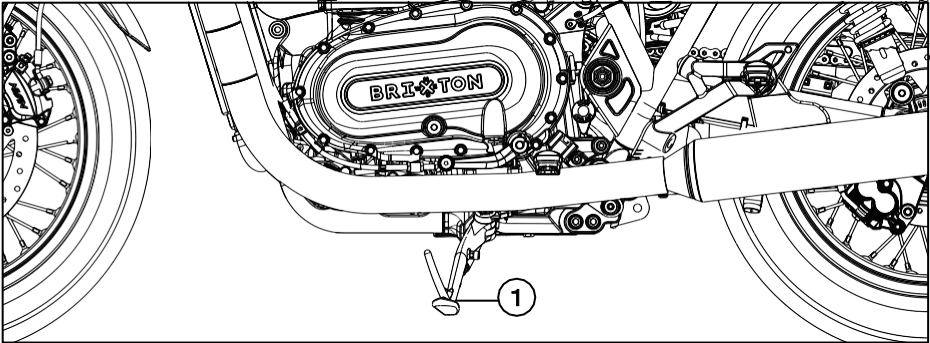


ヘルメットホルダーはシートの下にあります。ヘルメットホルダーを使用するには、シートを取り外し、ヘルメットホルダーの自由端を取り出す必要があります。次に、それらを固定端の外側に持ってきて、ストラップでヘルメットをブラケットに掛け、シートを再度取り付けます。

危険

運転中にヘルメットをヘルメットハンガーに掛けると、ライダーのヘルメット制御能力が損なわれます。ヘルメットハンガーを使用してヘルメットを着用しないでください。別のヘルメットを着用する必要がある場合は、シートクッションの後部に取り付けてください。

サイドスタンド



バイクにはサイドスタンド(1)が装備されています。サイドスタンドを足で一番低い位置まで回し、バイクが安定して支持されていることを確認してから発進してください。

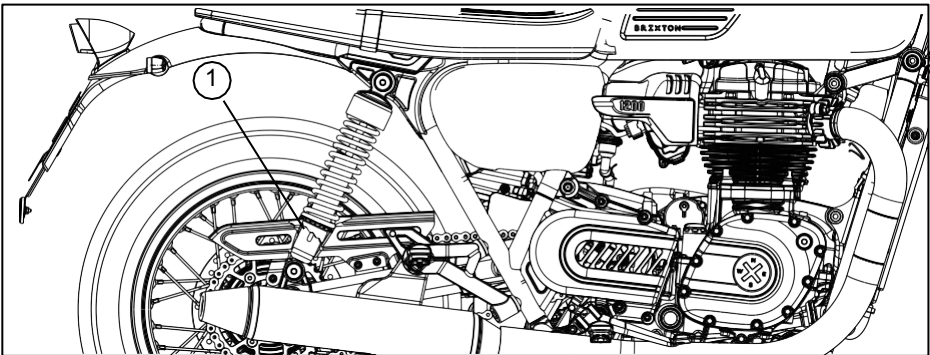
危険

乗車前にサイドスタンドが一番上まで回っていないか、接続が緩んでいないか確認してください。サイドスタンドを他の位置に置いたままにしないでください。

危険

横転を避けるため、バイクをしっかりとした水平な場所に駐車してください。わずかに傾斜した地形にバイクを駐車する必要がある場合は、サイドスタンドの回転による横転の可能性を減らすために、上り坂を向いて1速ギアに入れて駐車してください。

リアショックアブソーバー



リアショックアブソーバー(1)のスプリングプリロード圧は、ドライバー、荷重、運転スタイル、道路状況に応じて調整できます。調整スプリングプレート時計回りに回すとショックアブソーバーのスプリングプリロード圧が増加し、反時計回りに回すと減少します。サスペンションシステムは、快適だと思えるまで、調整を繰り返してください。

燃料、エンジンオイル、冷却液の使用

燃料:

95～97のきれいな無鉛ガソリンのみを使用してください。無鉛ガソリンは点火プラグとサイレンサーの寿命を延ばすことができます。経験上、ノッキングノイズが発生する場合は、ブランドごとに違いがあるため、高オクタン価ガソリンまたは他のブランドのガソリンを使用できます。

警告

有鉛ガソリン、低品位燃料およびオイルは、電子燃料噴射システムのコンポーネントを損傷し、点火プラグやマフラー内の触媒コンバータの寿命を縮めます。燃料ラインが詰まり、エンジン故障の原因となるため、汚れた燃料は使用しないでください。

エンジンオイル:

高品質の4ストロークエンジンオイルを使用すると、エンジンの寿命を延ばすことができます。API SJ以上の「4ストロークバイク用エンジンオイル」をご使用ください。

注意

使用済みの油は適切に処分し、環境汚染を防止してください。使用済みオイルは密閉容器に入れて、地元のリサイクルセンターに送ることをお勧めします。ゴミ箱に捨てたり、地面に直接捨てたりしないでください。

クーラント:

アルミラジエターに適した冷却液をご使用ください。冷却剤はエチレングリコールと水の混合物です。

危険

エンジン冷却液は飲み込んだり吸入すると有害または致命的であり、動物にとって有毒です。不凍液や冷却剤を飲まないでください。飲み込んだ場合は、直ちに毒物管理センターまたは病院に連絡してください。冷却剤の蒸気や高温の煙を吸入しないようにしてください。吸入した場合は、嘔吐を助長せず、すぐに新鮮な空気の換気された場所に移動してください。冷却液が目に入った場合は、きれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。作業後は手をよく洗い、子供やペットをクーラントに近づけないでください。

危険

こぼれた冷却液はバイクの塗装面を損傷する可能性があります。冷却水を注入する際は、こぼさないように注意してください。クーラントをこぼした場合はすぐに拭き取ってください。

クーラント消費量

冷却水量: 約 1.5L

慣れる

新しいバイクを適切に慣らし運転することで、バイクの寿命を延ばし、その性能を最大限に引き出すことができます。正しい慣らし運転の方法は以下の通りです。

推奨最高エンジン回転数:

慣らし運転期間中の推奨最高エンジン回転数を次の表に示します。

最初の 800 km	3,000 rpm未満
最大 1.600 km	4,000 rpm未満
1.600 km 以上	6,000 rpm未満

ギアとエンジン回転数:

時々ギアとエンジン速度を変更し、常に特定のギアと速度でエンジンを回転させないでください。慣らし運転期間中は、エンジンを完全に慣らし運転するためにスロットルを大きくすることができます。

新品タイヤで走行:

エンジンと同様、新しいタイヤも最適な性能を確保するには適切な慣らし期間が必要です。新品タイヤの最初の160kmでは、コーナーのリーン角を徐々に大きくしてタイヤ表面が地面に接触し、最適なパフォーマンスが得られます。新品タイヤを装着してから最初の160kmの間は、急加速、急旋回、急ブレーキを避けてください。

危険

タイヤの慣らしが不十分だと、スリップやコントロール不能の原因となります。新品タイヤに交換した後は特にご注意ください。このセクションの指示に従って正しいタイヤの慣らし運転を実行し、新しいタイヤの最初の 160 km は急加速、急旋回、急ブレーキを避けてください。

低速一定速度での走行を避ける:

一定の低速(軽負荷)で走行すると部品の磨耗が進行し、フィット感が低下します。推奨スロットル開度を超えない限り(スロットル開度3/4以下)、エンジンをさまざまな速度で運転できます。ただし、最初の500キロメートルはスロットルを3/4以上開けないでください。

走行前にオイルを循環させる:

エンジンが温間、冷間を問わず、十分な時間アイドルしてから始動し、各潤滑部にオイルを行き渡らせてください。

初回メンテナンス:

最初の1,000km以降のメンテナンスが最も重要です。それまでに、すべてのエンジン部品は慣らし運転が完了しています。したがって、このメンテナンスでは、すべての部品とコンポーネントを再調整し、すべての留め具を締め、摩耗部品によって汚染されたオイルを交換する必要があります。最初の1,000km走行後に注意深くメンテナンスを行うことで、バイクの最高のパフォーマンスが保証され、バイクの寿命が延びます。

試運転前の検査

試運転前のチェック

乗車前に必ず以下の事項をご確認ください。これらの点検の重要性を決して怠らず、走行前には必ず点検と必要な整備を行ってください。

チェックポイント	やること
燃料	<ul style="list-style-type: none">• タンク内の燃料レベルを確認してください。• 必要に応じて燃料を補給してください。• 燃料ラインに漏れがないか確認してください。
エンジンオイル	<ul style="list-style-type: none">• エンジンオイルレベルを確認してください。必要に応じて、エンジンオイル(正しい仕様のもの)を最大レベルまで補充してください。• 車両全体に漏れがないか確認してください。
フロント・リアブレーキ	<ul style="list-style-type: none">• ブレーキの機能を確認してください。抵抗が柔らかく感じられる場合は、ディーラーにブレーキシステムのエア抜きを依頼してください。• ブレーキパッドの摩耗を確認してください。• 必要に応じて交換してください。• リザーバー内の液面を確認してください。• 必要に応じて、推奨ブレーキ液を指定レベルまで補充してください。• 油圧システムに漏れがないか確認してください。
ハンドルグリップ	<ul style="list-style-type: none">• スロットルツイストグリップの動きやすさを確認します。• スロットルツイストグリップに過度の遊びがないか確認してください。• 必要に応じて、ディーラーにスロットルツイストグリップの遊びの調整とスロットルケーブルの注油を依頼してください。
ホイール・タイヤ	<ul style="list-style-type: none">• タイヤとホイールに損傷がないか確認してください。• タイヤの状態と溝の深さを確認してください。• タイヤの空気圧を確認してください。
ブレーキレバー・ペダル	<ul style="list-style-type: none">• コンポーネントがスムーズに動作することを確認します。必要に応じて、ピボットポイントに注油してください。
サイドスタンド	<ul style="list-style-type: none">• 動きやすさをチェック。必要に応じて、ピボットポイントに注油してください。
ネジ接続	<ul style="list-style-type: none">• すべてのナットとボルトが適切に締められていることを確認してください。必要に応じて締めてください。
計器、ライト、インジケーター、スイッチ	<ul style="list-style-type: none">• コンポーネントの機能を確認し、必要に応じて電球を交換します。

バイクの基礎知識

危険

- 初めてこのようなバイクに乗る場合は、バイクの制御や操作に慣れるまで、公道以外の場所ですべて練習してください。
- 片手だけでバイクに乗るのは大変危険です。ハンドルを両手でしっかりと握り、フットレストに足を置きます。いかなる場合でもハンドルから両手を離さないでください。曲がる前に安全な速度まで減速してください。
- 濡れた滑りやすい路面ではタイヤの摩擦力が低下し、制動性や旋回性が低下するため、事前に速度を下げる必要があります。
- トンネルの出口や谷、大型車両を後ろから追い越すときは必ず横風が発生します。注意して、落ち着いて、速度を落としてください。
- 交通ルールと制限速度を守ってご利用ください。

エンジンの始動

モーター停止スイッチが「」の位置にあるか確認してください。イグニッションスイッチの鍵穴にキーを差し込み、時計回りに「」(オン)の位置まで回します。バイクがニュートラルにあるとき、アイドルインジケーターが点灯します。

危険

エンジンを始動する前に、必ずバイクをニュートラルにし、スロットルレバーを元の位置に戻し、クラッチレバーを握ってください。そうしないと、ギアを入れてエンジンを始動すると、バイクが前進してしまいます。

注意

- 発進時はクラッチレバーを握るか、エンジンをアイドル状態にしてください。サイドスタンドを上げるのを忘れずに。
- バイクが横転すると、横転センサーが電源を切り、燃料供給を遮断してバイクを停止させます。バイクを再始動するには、イグニッションスイッチをオフにし、1分後にイグニッションスイッチをオンにしてエンジンを始動します。

冷えたエンジンから始動

1. サイドスタンドをたたみます
2. スロットルグリップをアイドル位置(スロットルをオフ)にします
3. 電動スタートボタンを押してスタートします
4. 始動後はエンジンが完全に暖まるまで運転を続けてください

注意

天気が寒ければ寒いほど、エンジンが暖まるまでに時間がかかります。エンジンが完全に暖まってから運転すると、エンジンの摩耗を軽減できます。

冷えたエンジンが始動しにくい場合

1. スロットルバルブを開ける
2. サイドスタンドをたたみます
3. スロットルを 1/8 開きながら電動スタートボタンを押します
4. エンジン始動後は完全に暖まるまで運転を続けてください

ドライブモード

暖まったエンジンから始動

1. サイドスタンドをたたみます
2. スロットルグリップをアイドル位置(スロットルをオフ)にします
3. 電動スタートボタンを押してスタートします

暖まったエンジンが始動しにくい場合

1. サイドスタンドをたたみます
2. スロットルを 1/8 開きながら電動スタートボタンを押します

危険

排気ガスは有毒であるため、換気の悪い場所や換気されていない部屋でエンジンを始動しないでください。エンジンを作動させたまま放置しないでください。燃料またはオイルが少ない場合は、バイクを始動しないでください。
--

警告

バイクが動かない場合は、エンジン回転数を上げすぎたり、長時間アイドリングしたりしないでください。長時間のアイドリングによるエンジンの過熱は、内部部品を損傷したり、エキゾーストやマフラーの変色の原因となります。
--

バイクに乗る

サイドスタンドをたたみ、クラッチレバーを締め、ギアレバーを踏んで1速に入れます。スロットルグリップを加速方向に回し、ゆっくりとクラッチレバーを放してバイクを走行させてください。より高いギアにシフトするには、スロットルを徐々に開き、スロットルを放し、クラッチレバーを引き、シフトレバーを持ち上げてより高いギアにシフトする必要があります。クラッチレバーを放し、徐々にスロットルを開けて加速します。この方法で一番高いギアにシフトすることができます。

危険

- バイクを始動する前に、サイドスタンドが最上部の位置にあることを確認し、それ以外の位置で停止しないでください。
- 乗車前にヘルメット、ゴーグル、目立つ服装を着用してください。
- 飲酒後や薬を服用した後はバイクに乗らないでください。
- 道路が滑りやすい場合や視界が悪い場合は速度を落としてください。
- スピードの出しすぎはバイクのコントロールを失い事故につながりやすいです。バイクは国の法規で定められた速度で走行してください。
- 地形、視界、走行環境に応じて適切な速度を選択してください自分の能力の範囲内でバイクを運転してください。自分のライディング能力の限界を理解し、能力を超えてライディングしないでください。
- 片手だけでバイクに乗るのは大変危険です。ハンドルを両手でしっかりと持ち、フットレストに足を置きます。いかなる場合でもグリップから手を放さないでください。
- 横風は、トンネルの出口や谷、後ろから大型車が追い越すときに発生します。注意して、落ち着いて、速度を落としてください。

トランスミッションをシフトする

ギアボックスの使用により、エンジンは通常速度範囲でスムーズに回転します。ギヤ比はエンジン特性に合わせて慎重に調整されています。ドライバーは走行状況に応じて最適なギアを選択し、低速ギアでエンジンを高速で回転させないでください。決してクラッチを半クラッチして速度を制御してはなりません。低いギアにシフトする前に、バイクの速度を下げるか、エンジン速度を上げてください。より高いギアにシフトする前に、バイクの速度を上げるか、エンジン速度を下げてください。

ドライブモード

危険

非常に高いエンジン回転数でシフトダウンすると後輪にブレーキがかかり、事故につながる可能性があります。旋回時にシフトダウンすると後輪にブレーキがかかり、バイクのコントロールができなくなります。コーナーに入る前にバイクの速度を落としてシフトダウンしてください。

警告

どのギアでもエンジンを回転させないでください。ご自身でギアを惰性で入れたり、クラッチを繋いだりすることは禁止されています。エンジンを回転しすぎるとエンジンが損傷します。

坂での運転

- 上り坂になると、バイクはパワー不足で速度が落ちます。エンジンを通常の出力範囲で動作させ続けるには、シフトダウンする必要があります。このような場合、バイクの過度なブレーキを避けるために、素早くシフトチェンジする必要があります。
- 下り坂では、低いギアにシフトすることでエンジンブレーキを使用してブレーキを補助することができます。ブレーキを掛け続けるとオーバーヒートして制動力が低下します。エンジンの内部部品が損傷しやすくなりますので、エンジンの回転を上げすぎないように注意してください。

警告

マフラー内の触媒コンバーターの寿命が短くなるのを防ぐため、坂道を走行するときはイグニッションやエンジンストップスイッチをオフにしないでください。

ブレーキと駐車

1. スロットルグリップを放すと、スロットルレバーが完全に戻ります。
2. ブレーキをかけるには、フロントブレーキレバーとリアブレーキペダルを使用します。
3. 速度が十分に低い場合は、より低いギアにシフトし、バイクの速度を下げます
4. クラッチレバーをしっかりと握り(クラッチを切り)、バイクを空転させてから完全に停止してください。バイクがニュートラルにシフトされると、ディスプレイのアイドルインジケーターが点灯します。
5. サイドスタンドを立てて少し傾斜して駐車する場合は、サイドスタンドの回転による転倒を防ぐため、ギアを低速にし、上り坂を向いて駐車してください。ただし、再始動する前に必ずシフトをニュートラルに戻してください。
6. イグニッションスイッチを「**0**」(オフ)の位置にしてエンジンを停止します
7. 安全を確保するためにハンドルロックを施錠してください。
8. キーを取り外します。

警告

リアブレーキのみでブレーキをかけると、ブレーキシステムの摩耗が早くなり、制動距離が長くなります。

危険

- バイクの速度が速すぎると、それに応じて制動距離も長くなります。バイクの速度を落とすのに十分な距離を前方の車両または物体まで確保してください。そうしないと、追突事故が発生する可能性があります。
- 前輪または後輪のブレーキのみをかけると、横滑りやコントロール不能の原因となり危険です。滑りやすい路面やカーブでは、ブレーキシステムを注意深く慎重に操作してください。凹凸のある路面や滑りやすい路面でフルブレーキをかけると、バイクのコントロールを失う可能性があります。
- 旋回時にフルブレーキをかけるとバイクのコントロールを失う可能性があります。曲がる前にブレーキをかけてバイクの速度を下げてください。
- エンジン始動時や停止直後はマフラーが高温になっています。火傷の恐れがありますのでマフラーには触れないでください。

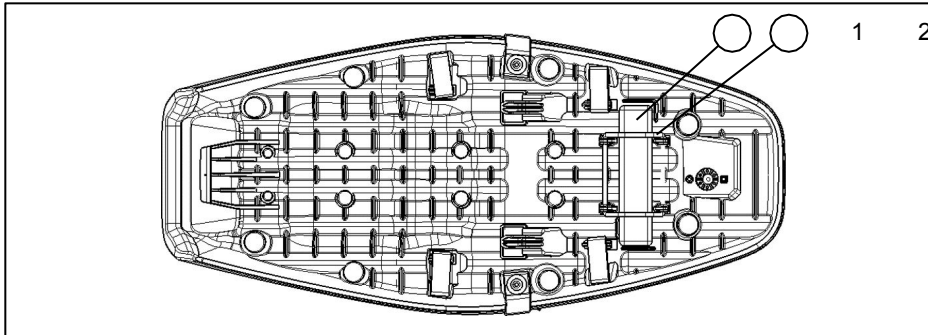
警告

リアブレーキのみでブレーキをかけると、ブレーキシステムの摩耗が早くなり、制動距離が長くなります。

注意

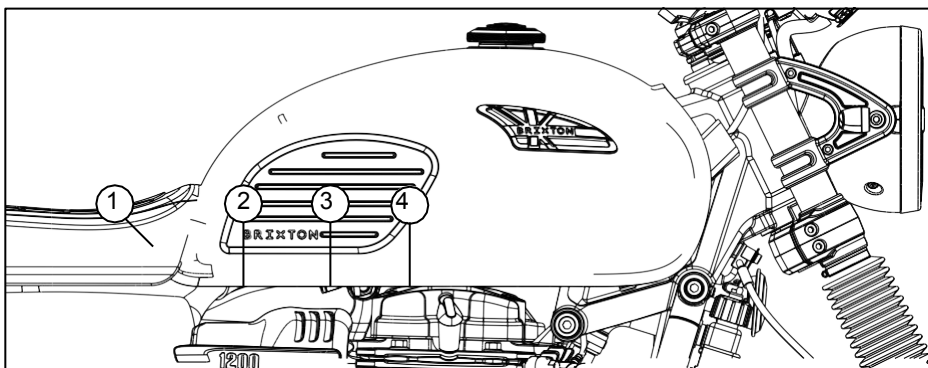
盗難防止のためにU字ロック、ブレーキ ディスク ロック、チェーン ロックなどの他の盗難防止装置を使用している場合は、走行前に盗難防止装置を取り外す必要があります。

ツールキット



工具箱(1)はシートに取り付けられています。シートのロックを解除して取り出すと確認できます。固定ストラップ(2)を緩めると、ツールキットを取り外すことができます。

燃料タンクの取り外しと取り付けのクイックガイド



1. サイドスタンドを立ててバイクを駐車し、シートのロックを解除してシートを取り外します。
2. 燃料タンク固定ネジ(1)を外す。
燃料ポンプコネクタ(4)を外します。固定を緩め、燃料ライン(3)を取り外します。ベントライン(2)とオーバーターンバルブを取り外します。

注意

燃料ラインを外す際は燃料漏れがないことを確認してください

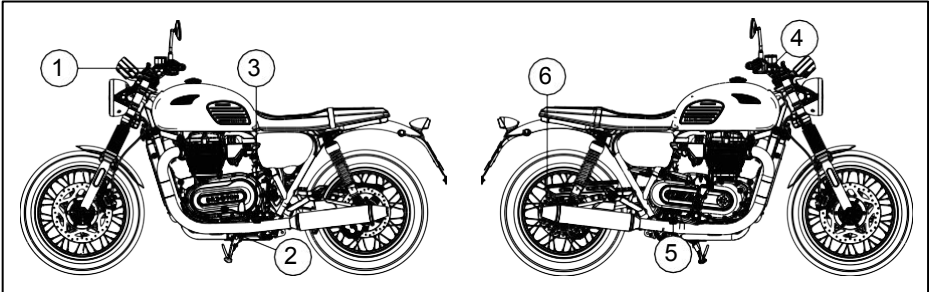
4. 燃料タンクの取り外し
 - 燃料タンクは取り外し時に不安定です。燃料タンクを取り外す際は2人で作業することをお勧めします。
 - 燃料ラインがよじれないように、燃料タンクを強く引っ張ったり、燃料ラインを曲げたりしないでください。
 - 燃料タンクを抜き差しする際は、燃料ラインの先端を傷つけないように注意してください。

危険

燃料ラインから燃料が漏れると、火災の原因となることがあります。燃料ラインを取り外す前にエンジンを停止してください。火、火花、熱源から遠ざけてください。喫煙しないでください。燃料は容器に集めて適切に処分してください。

燃料タンクの取り付け

燃料タンクを上記と逆の手順で取り付けます。燃料タンクを正しい位置に設置してください。パイプを正しく接続してください。吸収ホースを接続するときは、ホースクランプの先端を外側に向けてください。燃料ラインを取り付ける際は、燃料ライン内に異物が入らないように注意してください。

潤滑ポイント

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. クラッチレバーシャフト | 4. ブレーキレバーシャフト |
| 2. サイドスタンドシャフトとスプリングフック | 5. ブレーキペダルシャフトとフットレストシャフト |
| 3. フットレストシャフト | 6. ドライブチェーン |

安全な走行を確保するには、機能部品に十分な潤滑を施し、スムーズな動作を保証し、耐用年数を延ばす必要があります。バイクを過酷な条件で使用したり、雨の中で放置したり、洗車した後は、注油する必要があります。給油のポイントは以下の通りです。

バッテリー

バッテリーは完全にメンテナンスフリーで密閉されており、電解液の充填レベルや比重を定期的にチェックする必要はありません。ただし、充電性能を定期的にチェックする必要があります。

危険

バッテリー端子および関連コンポーネントには鉛または鉛化合物が含まれており、血流に入ると健康に害を及ぼす可能性があります。鉛を含む部品を扱った後は手を洗ってください。バッテリー内の硫酸は目を傷つけたり、皮膚を火傷する可能性があります。保護メガネや手袋を着用してください。硫酸により負傷した場合は、多量の水で起き上がり、直ちに医師の診察を受けてください。お子様をバッテリーに近づけないでください。

定期保守点検

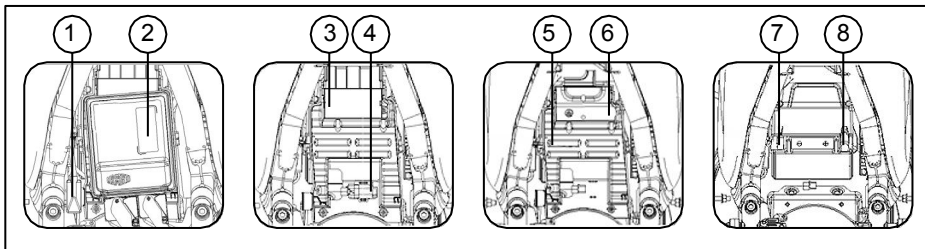
警告

- 環境汚染を避けるため、使用済みのバッテリーと電解液は適切に処分してください。使用済みのバッテリーと電解液を地元のリサイクルセンターに送ることをお勧めします。ゴミ箱に捨てたり、地面に直接捨てたりしないでください。
- バッテリーを定期的にチェックし、電圧が 11.5 V を下回ったらバッテリーを充電してください。

注意

過充電するとバッテリーの寿命が短くなるため、過充電しないでください。

バッテリーの取り外し



バッテリーを取り外すには、次の手順を実行します:

1. サイドスタンドを立ててバイクを駐車します
2. シートのロックを解除してシートを取り外します (燃料タンクの取り外しを参照)
3. ECU(1)とOBD診断インターフェイス(2)を取り外します
4. 傾斜センサーとヒューズボックスを取り外します
5. 4本のM6フランジネジを取り外し、ECU サポートプレートを取り外します
6. 保護キャップを外してマイナス端子(-)を取り外します
7. 保護キャップを外してプラス(+)端子を分解します
8. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

バッテリーは上記と逆の手順で取り付けてください。

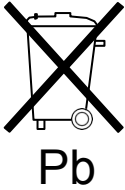
- バッテリー端子を正しく接続してください

警告

バッテリーを接続するときは、最初に赤いケーブルをプラス端子に接続し、次に黒いケーブルをマイナス端子に接続します。接続を誤ると電気部品が損傷します。

注意

- バッテリーを交換する場合は、同じ型番のMFバッテリーをお選びください
- バッテリーを長期間使用しない場合は、3 か月ごとに充電する必要があります



バッテリーのマークは、使用済みバッテリーを通常の家庭廃棄物とは別に収集する必要があることを示しています。化学記号「Pb」は、バッテリーに 0.004% 以上の鉛が含まれていることを示します。

廃バッテリーは適切に処分またはリサイクルする必要があります。そうしないと、環境や人の健康に悪影響を及ぼします。材料をリサイクルすることで天然資源を保護できます。廃バッテリーの正しい処分とリサイクルについてご質問がある場合は、販売店にお問い合わせください。

警告

バッテリー端子および関連コンポーネントには鉛または鉛化合物が含まれており、血流に入ると健康に害を及ぼす可能性があります。鉛を含む部品を扱った後は手を洗ってください。バッテリー内の硫酸は目を傷つけたり、皮膚を火傷する可能性があります。保護メガネや手袋を着用してください。硫酸により負傷した場合は、多量の水で起き上がり、直ちに医師の診察を受けてください。お子様をバッテリーに近づけないでください。

エア・フィルター

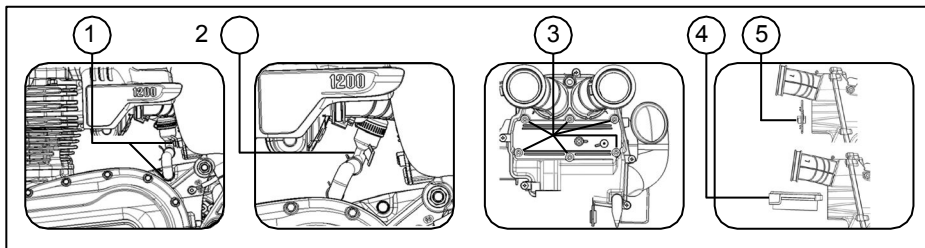
エアフィルターは燃料タンクの下にあります。エアフィルターにゴミが詰まると吸気抵抗が増大し、出力が低下し燃費が悪化します。ほこりの多い環境でバイクを運転する場合、エアフィルターエレメントをより頻繁に掃除または交換する必要があります。 次の手順に従って、エアフィルターを確認し、掃除してください。

警告

ほこりの多い環境でバイクを運転する場合、エアフィルターエレメントをより頻繁に掃除または交換する必要があります。エアフィルターを取り付けずにエンジンを運転するのは非常に危険です。エアフィルター内のエレメントが詰まっていない場合、エンジンの火花がエンジンからエアフィルター吸気チャンバーに燃え戻ります。汚れがエンジンに入り込み、損傷する可能性があります。エアフィルターを取り付けずにエンジンを運転しないでください。

注意

定期的な点検を行わずに、汚れた、濡れた、泥だらけの環境でバイクを頻繁に使用すると、バイクが損傷する可能性があります。このような状態ではエアフィルターが目詰まりを起こし、エンジンの損傷の原因となります。過酷な環境で走行した後はエアフィルターを点検し、必要に応じて掃除または交換してください。エアフィルターに水が入った場合は、すぐに掃除してください。



フィルターエレメントを交換する手順は次のとおりです：

1. ベントパイプ(1)のクランプと燃料・ペーパーセパレータハウジングの固定ネジを外します
燃料とペーパーセパレータの組み合わせ(2)を取り外し、フィルターカバー(3)のネジを取り外します
3. フィルターカバー(4)とフィルターインサー(5)を取り外します
4. エアフィルターエレメントを圧縮空気で慎重に清掃します

警告

エアフィルターが破損すると、エンジン内にゴミが侵入し、エンジンが損傷する可能性があります。フィルターエレメントが破損した場合は、新しいフィルターエレメントと交換してください。エアフィルターを掃除するときは、フィルターエレメントが破損していないか確認してください。

5. 洗浄したフィルターエレメントまたは新しいフィルターエレメントを逆の順序で取り付けます。フィルターエレメントが正しい位置に取り付けられ、適切に密閉されていることを確認してください。

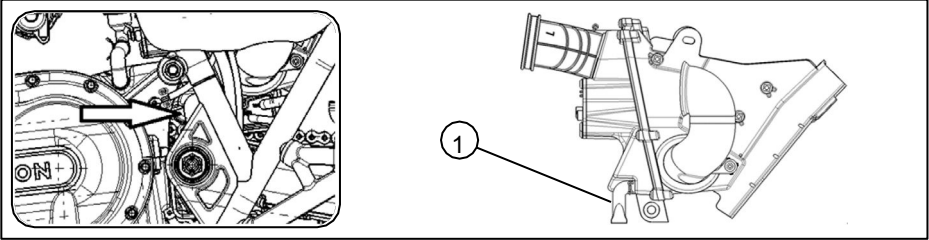
警告

- エアフィルターエレメントが正しく取り付けられていないと、粉塵がフィルターエレメントを迂回してエンジンに入り、エンジンに損傷を与える可能性があります。フィルターエレメントが正しい位置に取り付けられていることを確認してください。
- 粉塵が多い環境でバイクを運転する場合は、フィルターエレメントの点検・交換の間隔を短くする必要があります。フィルターエレメントの詰まり、損傷、ほこりの漏れ、エンジン性能の明らかな低下、燃料消費量の増加、または同様の状態に気づいた場合は、定期メンテナンスを待たずに直ちにフィルターエレメントを交換してください。フィルターエレメントを取り付けずにエンジンを始動すると、エンジンの摩耗が増加します。この部品は常にエンジンの耐用年数に影響を与えるため、フィルターエレメントを定期的に確認してください。

注意

バイクを洗車する際はエアフィルターに水が入らないように注意してください。

排水ホース

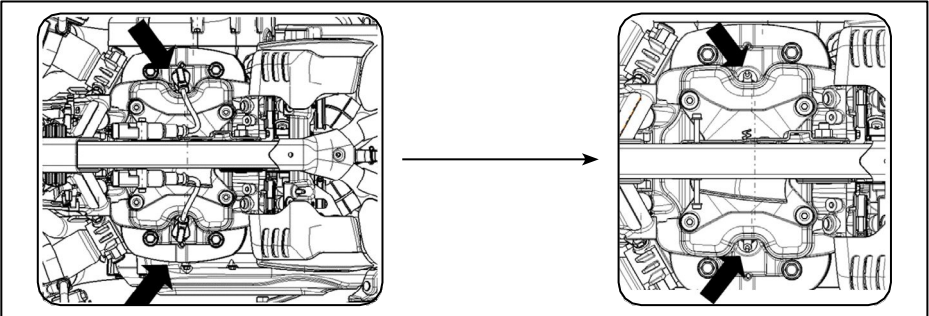


定期メンテナンス時はドレンホース(1)を取り外し、内部の燃料残留物を排出してください。

注意

- 湿度が高い場合は、それに応じて検査頻度を増やす必要があります。
- 運転後は必ずドレンパイプを元に戻してください。

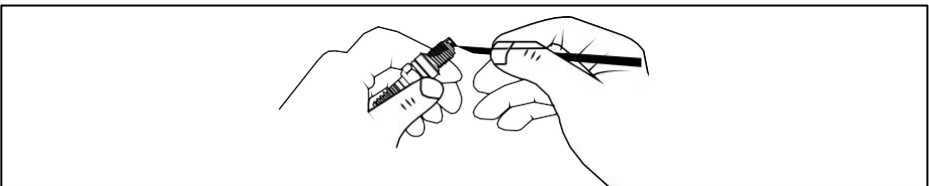
スパークプラグ



スパークプラグを取り外すには、次の手順に従ってください：

1. スパークプラグコネクタを取り外します
2. 点火プラグスパナを使用して点火プラグを取り外します

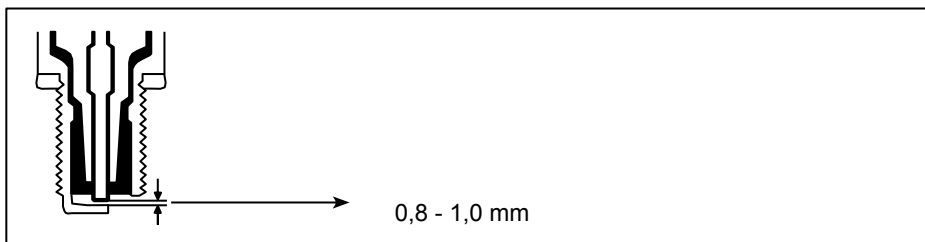
スパークプラグの検査



警告

ゴミが点火プラグの取り付け穴からエンジン内に侵入し、エンジンを損傷する可能性があります。点火プラグを取り外した後は、点火プラグの取付穴を塞いでください。

点火プラグに付着したカーボンを硬鉄線または鋼針で清掃し、点火プラグの電極ギャップを隙間ゲージで確認し、電極ギャップが0.8～1.0mm になるように調整します。



スパークプラグの交換

警告

不適合スパークプラグの熱価範囲は、走行中のエンジンに適していません。エンジンに損害が発生する可能性があります。損害賠償を請求することはできません。スパークプラグは下記型式のスパークプラグをご使用ください。

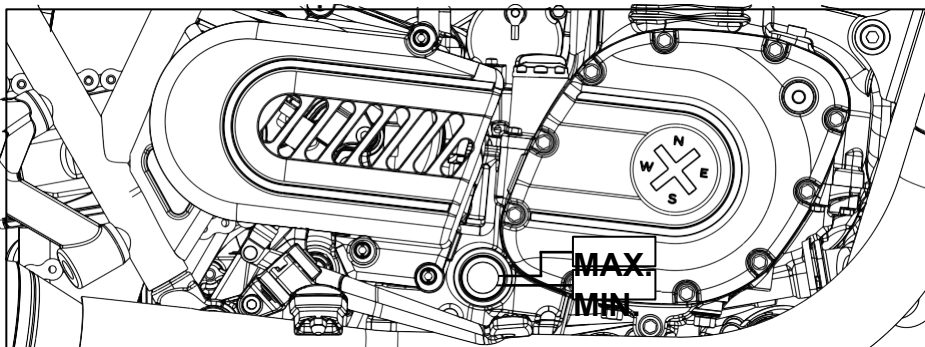
スパークプラグは定期メンテナンススケジュールに従って交換する必要があります。スパークプラグの取り外し、取り付けは専門業者に依頼してください。

スパークプラグモデル:	LMAR8A-9 (NGK)
電極ギャップ	0,8 - 1,0 mm
締め付けトルク:	12 Nm

モーター・オイル

エンジンの耐久性を保つためには、良質なオイルを選択し、定期的にエンジンオイルを交換することが非常に重要です。毎日のオイルレベルのチェックと定期的なオイル交換は、メンテナンススケジュールの一部として実行する2つの重要な作業です。

オイルレベルチェック



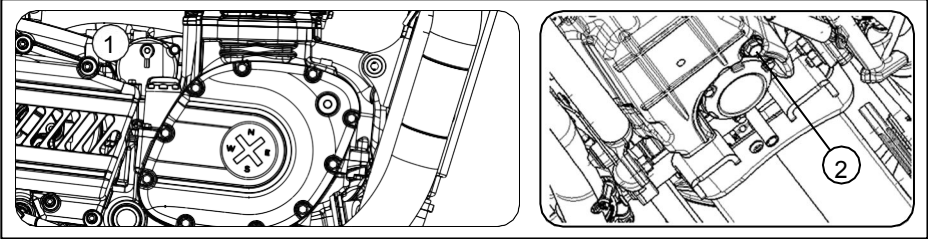
エンジン内のオイルレベルを確認するには、次の手順を実行します：

1. バイクを平らな場所にサイドスタンドを立てて駐車します
2. エンジンを始動し、3分間運転します
3. エンジンを切り、3分間待ちます

4. サイドスタンドを上げてバイクを動かし続けます。次に、エンジン右側のオイル量点検窓からエンジンオイル量を確認します。油面は「F」線と「L」線の間にある必要があります。

警告

エンジンオイルが多すぎたり少なすぎたりした状態でエンジンを運転すると、エンジンが損傷します。バイクを平らな場所に駐車してください。オイルレベル点検窓からオイルレベルを確認してください。オイルレベルは「L」線より上、「F」線より下にある必要があります。

オイル交換

メンテナンスサイクルごとにエンジンオイルを交換してください。使用済みオイルをより完全に排出するために、エンジンが暖まっているときにオイルを交換します。手順は次のとおりです：

1. バイクをサイドスタンドに駐車します
2. オイルフィルタープラグを取り外します
3. ドレンプラグの下にドレンパンを置きます
4. ドレンプラグを外し、使用済みのオイルを排出します

警告

- エンジンオイルやマフラーの排気管により火傷をする恐れがあります。使用済みオイルを排出する前に、ドレンプラグとエキゾーストパイプが冷えるまで待ってください。
- 誤ってオイルを飲むと、子供やペットに害を及ぼす可能性があります。繰り返します：エンジンオイルに長期間さらされると、皮膚がんを引き起こす可能性があります。エンジンオイルに短時間接触すると、皮膚を刺激する可能性があります。子供やペットをエンジンオイルに近づけないでください。エンジンオイルを交換するときは、皮膚の炎症を避けるため、長袖の服と保護手袋（洗濯手袋など）を着用してください。エンジンオイルが皮膚に付着した場合は、石けんと水でよく洗ってください。エンジンオイルで汚れた衣服や布は洗濯してください。使用済みエンジンオイルはリサイクルして適切に処分してください。

注意

使用済みエンジンオイルはリサイクルして適切に処分してください。

定期保守点検

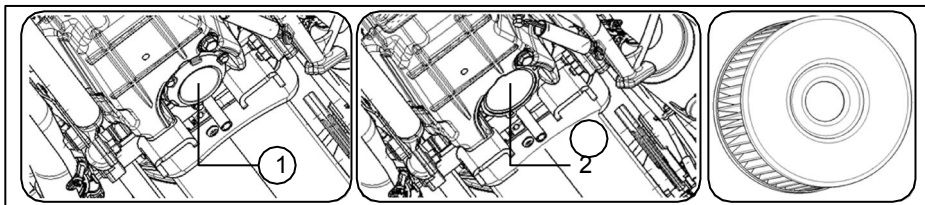
- ドレンプラグとそのワッシャーを交換します。ドレンプラグをスパナで締め付けます。
- 詰め替え用約 新API SJ以上の「4ストロークバイクエンジンオイル」をオイルフィルターネックより3,200ml 注入。(エンジンオイルフィルターエレメントを同時交換する場合は、約 3,400mlの新品エンジンオイルの補充が必要です)。

警告

所定のエンジンオイルを使用しないとエンジンが破損する恐れがあります。

- オイルフィルタープラグを差し込みます。
- エンジンをさまざまな速度で 3 分間運転します。エンジンを始動した状態で、再取り付けした部品からの漏れがないか確認してください。
- エンジンを切り、3分間待ちます。エンジンオイル量は走行中にオイル量確認窓から確認してください。エンジンオイルの量が「L」線よりも低い場合は、新しいオイルを「F」線まで追加してください。漏れがないか再度確認してください。

オイルフィルターエレメント



エンジン オイル フィルタ エレメントはメンテナンス サイクルごとに交換してください。エンジン オイルを排出する場合は、エンジンオイルフィルターエレメントを交換する必要があります。

手順は次のとおりです:

- 「オイル交換」の項に記載されているように、使用済みのエンジンオイルを完全に排出します。

警告

子供やペットが誤ってオイルを飲むと危害を及ぼす可能性があります。繰り返します:エンジンオイルに長期間さらされると、皮膚がんを引き起こす可能性があります。エンジンオイルに短期間接触すると、皮膚を刺激する可能性があります。子供やペットをエンジンオイルや使用済みのオイルフィルターエレメントに近づけないでください。エンジンオイルを交換するときは、皮膚の炎症を避けるため、長袖の服と保護手袋(洗淨手袋など)を着用してください。エンジンオイルが皮膚に付着した場合は、石けんと水でよく洗ってください。エンジンオイルで汚れた衣服や布は洗濯してください。使用済みのエンジンオイルとオイルフィルターエレメントはリサイクルして適切に処分してください。

注意

使用済みのエンジンオイルとオイルフィルターエレメントはリサイクルし、適切に処分してください。

2. オイルフィルタエレメント(2)を専用キャップツール(1)または適切なサイズの専用ベルトツールを使用して反時計回りに回して取り外します。
3. エンジンのオイルフィルターエレメントの取り付け面を布で拭きます。
4. 新しいオイルフィルターエレメントのシールリングに少量の新しいオイルを塗布します。

警告

不適切なオイル フィルター エレメントや不適切なネジ山のオイル フィルターエレメントと交換すると、エンジンが損傷する可能性があります。部品は当社オリジナル品を使用してください。

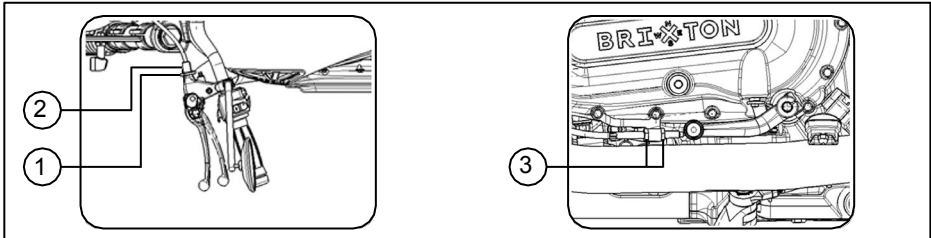
5. オイルフィルターエレメントを専用工具で取り付けの場合は規定トルクで締め付けてください。

オイルフィルターエレメントの取り付けトルク: 20 Nm

6. ドレンプラグをワッシャーとともに取り付け、「オイルの交換」の項に従って新しいエンジンオイルを注入します。オイルフィルタープラグを取り付けます。エンジンを始動して漏れがないか確認します。エンジンを始動した後、オイルレベルを確認してください。

注意

オイルフィルターインサートの専用工具が必要な場合は、当社指定整備工場にご相談ください。

クラッチレバーの遊び

クラッチレバー先端の遊びを測定し、10～15mmの範囲である必要があります。遊びがこの範囲を外れている場合は、以下のように調整してください。

微調整

1. クラッチケーブルロックナット(1)を緩める
2. クラッチケーブルアジャスター(2)を回して適度な遊びを持たせます
3. クラッチケーブルロックナット(1)を締め付ける

大幅な調整

1. クラッチアジャスターのロックナット(3)を緩める
2. 適切な遊びが得られるようにクラッチ位置を調整します
3. ロックナット(3)を締めます

定期保守点検

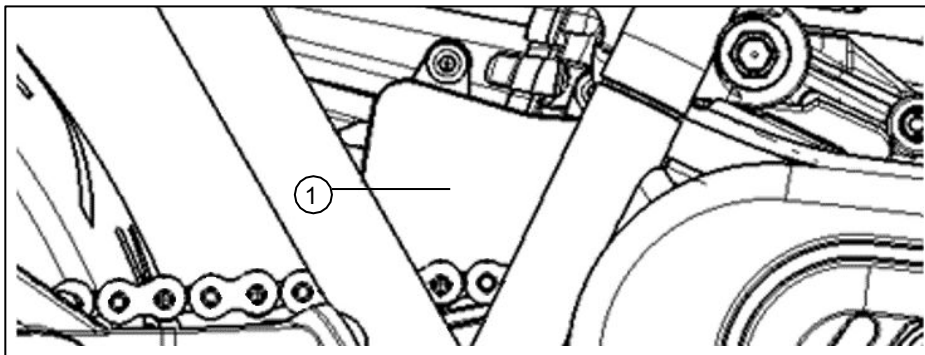
アイドル回転数

エンジンのアイドル回転数は、エンジンが暖まっているときに確認する必要があります。エンジンのアイドル速度は 1000 ± 100 rpm の範囲内である必要があります。

注意

アイドル回転数が規定範囲外の場合は当社指定整備工場で点検を受けてください。

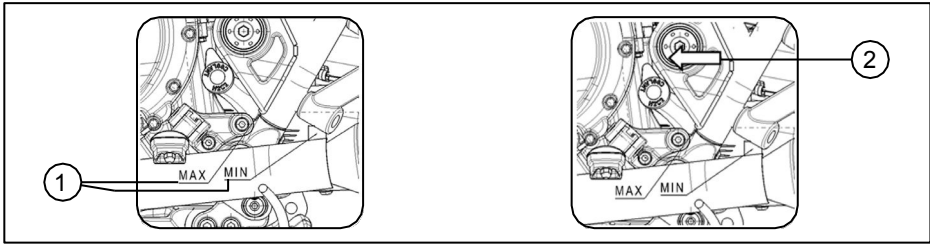
蒸発ガス制御システム (EVAP)



このバイクには、燃料が大気中に蒸発するのを防ぐ制御システムが装備されています。以下の項目を定期的(10,000kmごとまたは30ヶ月ごと)に点検してください。(1)すべての配管が確実に接続されていることを確認します。(2)配管またはチャコールキャニスター(1)に亀裂や損傷がないか確認し、必要に応じて交換します。(3)配管またはチャコールキャニスター(1)に詰まりがないか確認し、必要に応じて清掃または交換します。

クーラント

クーラントレベル



クーラントリザーバー内のクーラントレベルは、「MIN」と「MAX」の線の間にある必要があります。(1)常にバイクの運転状況に応じて定期的に冷却水のレベルを確認してください。冷却水の水位が「L」線よりも低い場合は、次の方法で適切な冷却水を補充してください。

1. バイクをサイドスタンドに駐車します。
2. クーラントリザーバーを開け、適切なクーラントを「F」ライン(2)まで補充します。「燃料、オイル、クーラントの使用上の注意」セクションの内容を参照してください。

注意

- エンジンが冷えているときに冷却水のレベルを確認してください。
- クーラントタンクが空の場合は、直ちに冷却システムをチェックし、クーラントを補充してください。

危険

冷却剤は、飲み込んだり吸入したりすると有害であり、場合によっては死に至る可能性があります。動物にとっても有毒です。不凍液や冷却剤を飲まないでください。飲み込んだ場合は吐かせず、ただちに中毒情報センターまたは医師に連絡してください。吸入した場合は、新鮮な空気のある場所へ移動してください。冷却液が目に入った場合は、きれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。作業後は手をよく洗います。子供やペットを不凍液や冷却剤から遠ざけてください。

クーラントの交換

クーラントは2年ごとに交換してください。

注意

クーラントを交換するには、約1リットルのクーラントを追加する必要があります。リザーバーとラジエーターに冷却水を1,500ml注入。

燃料ライン

燃料タンクを持ち上げて、燃料ラインに損傷や漏れがないか確認します。問題が発生した場合は、燃料ラインを交換する必要があります。

注意

燃料タンクを無理に持ち上げないでください。

定期保守点検

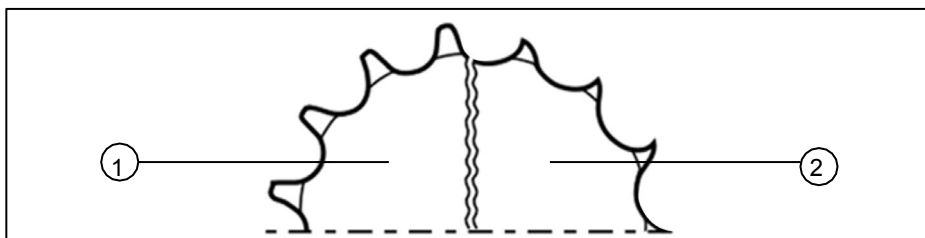
ドライブチェーン

二輪車モデルには、分割ロックリング付きドライブチェーンの代わりに、特殊素材を使用した円形ドライブチェーンを搭載しています。ドライブチェーンにはグリスが封入された特殊リングが付いています。バイクに乗る前に、バイクのドライブチェーンを点検し、調整してください。次の方法でドライブチェーンの点検と整備を行ってください。

危険

安全を確保するために、走行前にドライブチェーンを点検し、調整する必要があります。

ドライブチェーンの検査



ドライブチェーンを検査するときは、次の問題がないか確認してください：

- チェーンの緩み
- ピンローラーの損傷
- チェーンリンクが乾燥または錆びている
- 柔軟性のないチェーンリンク
- 過度の摩耗
- チェーンの調整不良

ドライブチェーンに異常がある場合、またはドライブチェーンの調整が正しくない場合は、弊社指定整備工場にご相談ください。ドライブチェーンの摩耗は、常にスプロケットも摩耗していることを示します。スプロケットに以下のような問題がないか確認してください。

- スプロケットが過度に摩耗している場合
- スプロケットの歯が欠けたり損傷したりした場合
- スプロケット固定ナットのいずれかが緩んでいる場合

スプロケット固定ナットのいずれかが緩んでいる場合

注意

ドライブチェーンを交換する際は、前後スプロケットの摩耗を確認し、必要に応じてスプロケットも同時に交換してください。

危険

交換後のドライブチェーンの取り付けが間違っていたり、スプリットリングタイプのドライブチェーンを使用すると大変危険です。リベットがしっかりと固定されていないドライブチェーンや、ロックリングが割れているドライブチェーンは緩み、事故やエンジン損傷の原因となる可能性があります。分割ロックリングを備えたドライブチェーンは使用しないでください。ドライブチェーンを交換するには、特別な工具と高品質の非分割ロックリングドライブチェーンが必要です。交換は当社指定の修理工場にお任せください。

ドライブチェーンの清掃と注油

ドライブチェーンは以下の方法で定期的に清掃と注油を行ってください：

1. シールリングを傷つけないように注意しながら、チェーンに付着したゴミやホコリを取り除いてください。
2. チェーンをシールリングチェーンクリーナーまたは水と中性洗剤で洗います。

警告

- チェーンを不適切に洗浄すると、シールリングが損傷し、チェーンが破損する可能性があります。
 - シンナーやガソリンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。
 - チェーンの掃除に高圧洗浄機は使用しないでください。
 - チェーンの洗浄にはワイヤーブラシを使用しないでください。
3. チェーンを洗うには柔らかいブラシを使用してください。柔らかいブラシを使用した場合でも、シールリングを傷つけないように注意してください。
 4. チェーンは水と中性洗剤を拭き取り、自然乾燥させてください。
 5. バイクチェーン専用のチェーンオイルをチェーンと内外プレートに注油してください。

警告

チェーン潤滑剤の中にはシールリングを傷める溶剤や添加剤が含まれているものもありますので、リングチェーン専用のチェーンオイルをご使用ください。

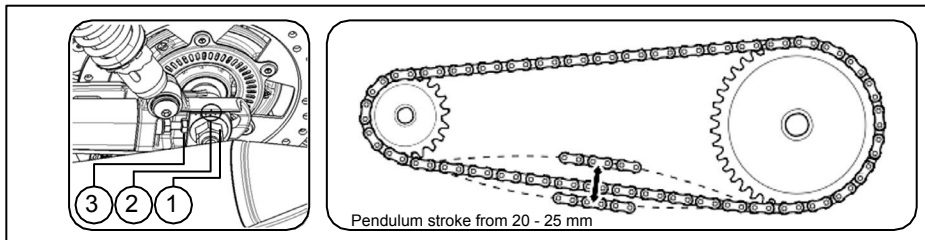
6. チェーンに完全に注油した後、余分なチェーンオイルを拭き取ってください。

注意

リングチェーン専用のチェーンオイルがない場合は、高粘度ギアオイルSAE90をご使用いただけます。

定期保守点検

ドライブチェーンの調整



ドライブチェーンのたるみを適切な範囲に調整してください。走行状況に応じてドライブチェーンの調整頻度を上げてください。

危険

ドライブチェーンが緩みすぎると、チェーンがスプロケットから外れて事故やエンジンの重大な損傷を引き起こす可能性があります。走行前にドライブチェーンの点検・調整を行ってください。

次の手順に従ってドライブチェーンを調整します：

危険

マフラーが熱くなると火傷する恐れがあります。場合によっては、エンジンを停止した後もマフラーがまだ熱くなっており、火傷する可能性があります。火傷を避けるため、マフラーが冷えるまで待ってください。

1. サイドスタンドを立ててバイクを駐車します。
2. ホイールアクスルナット(1)を緩めます。
3. 調整ねじ(3)を回してドライブチェーンのたるみを調整します。前後スプロケットの位置を合わせるには、アジャスターとブラケットの目印(2)を利用して、左右の目印を同じ位置に合わせてください。
4. ホイールアクスルナット(1)を締めます。
5. ドライブチェーンの緩みを再度確認し、必要に応じて調整してください。

後輪アクスルナットの締め付けトルク: 80 - 90 Nm

警告

バイクのドライブチェーンは特殊な原材料で作られています。ドライブチェーン(エンドレスチェーンD1D520、102リンク)の交換には必ず当社純正品をご使用ください。他のドライブチェーンを使用すると、早期に損傷する可能性があります。

ブレーキシステム

バイクの前輪と後輪の両方にディスクブレーキが装備されています。ブレーキシステムが適切に機能することは、安全なライディングにとって非常に重要です。資格のある整備工場によるブレーキシステムの定期点検を受けることを忘れないでください。

危険

- ブレーキはライダーの個人の安全にとって非常に重要です。ブレーキを定期的に点検・調整し、ブレーキキャリパーのスラッジがピストンの動きを妨げないように定期的に掃除する必要があります。

危険

- ブレーキシステムのメンテナンスが必要な場合は、資格のある整備工場にご相談ください。彼らは完全なツールと専門知識を備えており、最も安全かつ最も経済的な方法で仕事を行うことができます。
- ブレーキシステムの点検と保守を怠ると、事故の危険が高まります。「運転前の点検」セクションに従って、走行前に必ずブレーキシステムを点検してください。定期整備表に従ってブレーキシステムの整備を行ってください。

次の点を使用してブレーキシステムを点検してください：

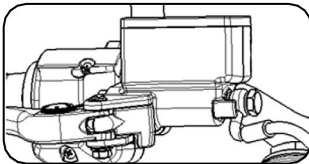
- ブレーキ液リザーバーのレベルを確認してください。
- フロントおよびリアのブレーキシステムに漏れの兆候がないか確認します。
- ブレーキ液ホースに漏れや破損がないか確認してください。
- ブレーキディスクとブレーキパッドの摩耗を点検してください。
- 前後ブレーキを操作して、ブレーキが柔軟で効果があることを確認します。

警告

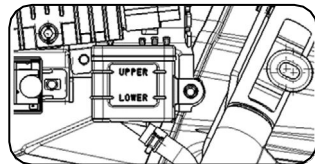
ディスクブレーキシステムは高圧ブレーキで作動します。安全性を確保するため、ブレーキ液ホースまたはブレーキ液の交換サイクルは、「点検と保守」セクションに指定されている期間を超えてはなりません。

ブレーキ液

フロントブレーキフルードリザーバー



リアブレーキフルードリザーバー



フロントおよびリアのブレーキフルードリザーバーのブレーキフルードレベルを確認してください。「LOWER」マークよりも低い場合は、ブレーキパッドの磨耗やブレーキフルードの漏れがないか確認してください。

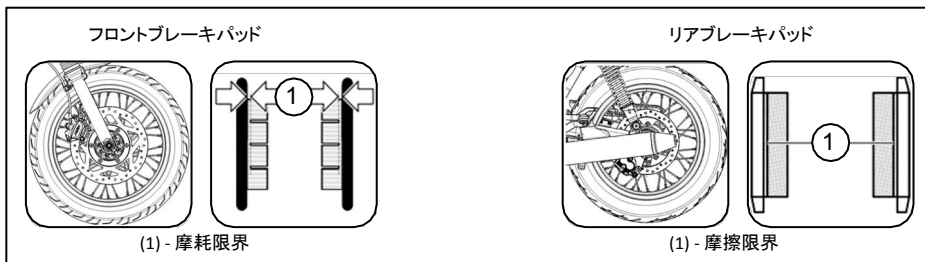
危険

ブレーキ液リザーバーを高圧の水で直接洗い流さないでください。ブレーキフルードを飲み込むと、人体に有害、場合によっては死亡に至る恐れがあります。ブレーキ液は皮膚や目に接触すると有害であり、動物にも有毒です。ブレーキ液を飲み込んだ場合は、吐かず直ちに毒物管理センターまたは病院に連絡してください。ブレーキ液が目に入った場合は、きれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。手をよく洗ってください。子供やペットをブレーキ液に近づけないでください。

警告

ブレーキシステムに重大な損傷を与える可能性があるため、バイクに使用されているブレーキ液 (DOT4) を粉塵、不純物、ケイ酸塩、または石油液と混合しないでください。開いた容器に保管されているブレーキ液は使用しないでください。前回の整備で残ったブレーキフルードは使用しないでください。オートバイ用の特殊なブレーキ液のみを使用できます。ブレーキ液がこぼれると、塗装やプラスチックの表面を攻撃する可能性があります。

ブレーキパッド



フロントまたはリアのブレーキパッドが摩耗限界に達していないか確認してください。摩耗限界に達している場合は、当社指定整備工場にて前後ブレーキパッドを同時に交換してください。

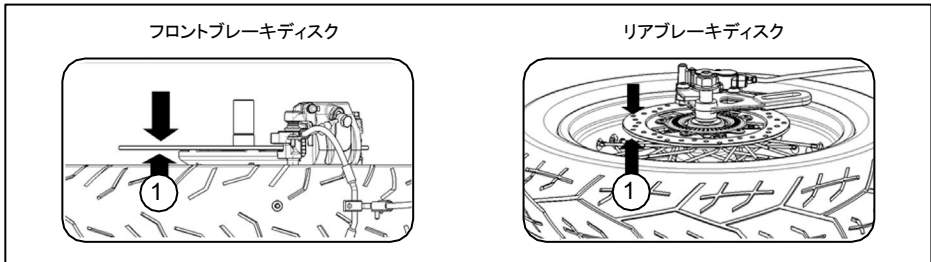
危険

- ブレーキが定期的に点検・整備されていない場合、または交換が推奨されているにもかかわらず適時に交換されていない場合、事故の危険性が高まります。ブレーキディスクの交換が必要な場合は当社指定整備工場にご依頼ください。推奨される方法に従ってブレーキパッドを点検し、整備してください。
- ブレーキシステムの整備やブレーキパッドの交換後、ブレーキレバーやブレーキペダルを数回操作せずに走行すると、ブレーキの効が悪くなり、事故の原因となります。ブレーキシステムの整備またはブレーキパッドの交換後は、ブレーキパッドがブレーキディスクを正常に押し付けられるようになり、ブレーキレバーとブレーキペダルの油圧抵抗が正常に戻るまで、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを数回操作してください。

警告

- ブレーキパッドの位置が間違っている場合は、ブレーキレバーやブレーキペダルを操作しないでください。ブレーキレバーやブレーキペダルを操作した際にピストンが戻りにくくなり、ブレーキフルードが漏れにくくなります。
- 2枚のブレーキパッドのうち1枚だけを交換すると、ブレーキ効果のバランスが崩れます。ブレーキパッドは両方同時に交換してください。

ブレーキディスク



- フロントブレーキディスクをチェックする際の最も重要なポイントは、ブレーキディスクの厚さが4.5mm未満であるかどうかを確認することです。板厚が4.0mm未満の場合は新品のブレーキディスクと交換してください。
- リアブレーキディスクをチェックする際の最も重要なポイントは、ブレーキディスクの厚さが4.5mm未満であるかどうかを確認することです。板厚が4.0mm未満の場合は新品のブレーキディスクと交換してください。

危険

- 新しいブレーキディスクまたはブレーキパッドを交換した直後はバイクに乗らないでください。ブレーキディスクとパッドが完全にフィットするまで、ブレーキレバーを数回押し放したりすると、通常のグリップ力が回復し、ブレーキフルードが安定して循環します。
- 新しいブレーキディスクまたはブレーキパッドを交換した後は、制動距離が元の制動距離より長くなる場合があります。最適なブレーキ効率、約300km走行後にブレーキディスクとパッドが完全に慣らされると達成できます。その前に、走行中に十分な制動距離を維持する必要があります。

定期保守点検

タイヤ

危険

- 以下の点を守らないとタイヤの破損による事故の原因となります。タイヤはバイクと地面を繋ぐ大切なものです。以下のルールを守ってください: 乗車前にタイヤの状態とタイヤ空気圧を確認し、タイヤ空気圧を調整してください。バイクに過負荷をかけないようにしてください。タイヤが摩耗限界に達している場合、またはタイヤ表面に亀裂や損傷が見られる場合には、タイヤを交換してください。必ずここに記載されているサイズと仕様のタイヤを使用してください。タイヤ装着後はバランス調整を行います。このセクションをよく読んでください。
- タイヤの慣らしが不十分な場合、タイヤがスリップし、コントロールが失われる可能性があります。新しいタイヤでバイクに乗るときは特に注意してください。「新しいタイヤの慣らし運転」セクションの指示に従ってタイヤの慣らし運転を実行し、新しいタイヤの最初の160kmは急加速、急旋回、急ブレーキを避けてください。

タイヤの空気圧と荷重

適切なタイヤ空気圧とタイヤ荷重は重要な要素です。過負荷はタイヤの故障を引き起こし、バイクを制御できなくなります。

- バイクに乗る前に毎回タイヤの空気圧を点検し、タイヤの空気圧と荷重が下表の指定どおりであることを確認してください。乗車前にタイヤの空気圧を確認し、修正してください。走行後はタイヤが熱くなり、タイヤの空気圧が高くなります。
- タイヤ空気圧が低すぎるとターンインが困難になり、タイヤの摩耗が促進されます。タイヤの空気圧が高すぎると、タイヤと地面の接触面積が減少し、横滑りやコントロールの喪失を引き起こしやすくなります。

室温でのタイヤの推奨空気圧:

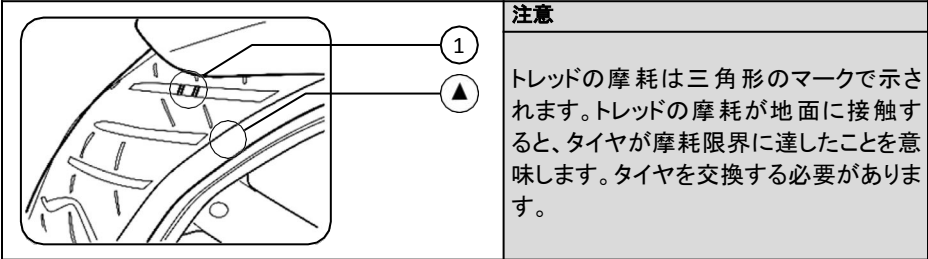
タイヤ耐荷重	ドライバーのみ	ドライバーとパッセンジャー
フロントホイール	2,2 bar	2,2 bar
リアホイール	2,2 bar	2,5 bar

注意

- タイヤの空気圧を定期的を確認し、タイヤの空気圧が上記の基準を下回っていないようにしてください。
- タイヤの空気圧が低下していることに気付いた場合は、タイヤに釘が刺さっていないか、小さな穴が開いていないか、リム側面に損傷がないかを確認してください。チューブレスタイヤは穴が小さいと徐々に空気が抜けてしまいます。

タイヤの状態と仕様

タイヤの状態や仕様が正しくないと、バイクの性能に影響を与えます。タイヤの損傷や傷はタイヤの故障につながり、バイクを制御できなくなります。タイヤが過度に摩耗するとパンクが発生し、バイクのコントロールができなくなることがあります。タイヤの摩耗はタイヤの外観にも影響し、タイヤの動作性能も変化します。使用前に毎回タイヤの状態と空気圧を確認してください。タイヤに亀裂や傷などの明らかな損傷が多い場合、または摩耗限界に達している場合はタイヤを交換する必要があります。



タイヤを交換するときは、新しいタイヤのサイズとモデルが以下の表の仕様と一致していることを確認してください。サイズやモデルの異なるタイヤを交換すると、バイクのハンドリングに影響が生じ、バイクのコントロールを失う可能性があります。

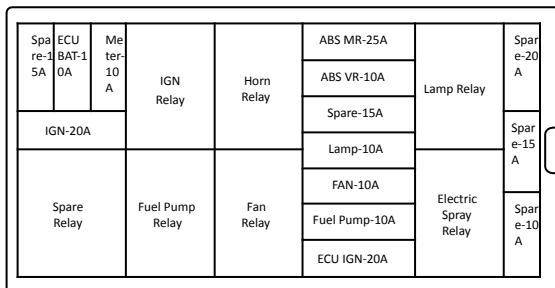
<p>危険</p> <p>標準タイヤ以外のタイヤを使用するとトラブルの原因となる場合があります。したがって、標準タイヤを使用することを強くお勧めします。</p>

修理または交換後は、タイヤのバランスを調整する必要があります。タイヤと地面との不安定な接触や偏摩耗を避けるために、タイヤのバランスをとることは非常に重要です。

<p>危険</p> <ul style="list-style-type: none"> 修理や取り付け後にタイヤのバランスが適切に調整されていないと、バイクが制御不能になり、タイヤの寿命が短くなります。タイヤの整備・交換・バランス調整は、必要な工具と経験を備えた当社指定の整備工場にご依頼ください。タイヤの側面に表示されている方向に従ってタイヤを取り付けてください。 チューブレスタイヤのメンテナンスを以下の指示に従って行わないと、事故につながる恐れがあります。チューブレスタイヤとインナーチューブ付きタイヤではメンテナンス方法が異なります。チューブレスタイヤのリムとビードの間の接触領域はシールされています。パンクを避けるために、リムとビードを保護するためにチューブレスタイヤを取り外して取り付けるには、特別な工具と特別なタイヤチェンジャーが必要です。チューブレスタイヤの小さな穴を修復するには、タイヤを取り外して内側からパッチを当てる必要があります。タイヤの回転による遠心力によりパッチが緩む可能性がありますので、外側からパッチを当てないでください。 タイヤ修理後24時間以内は80km/hを超えて運転し、その後は130km/hを超えて運転してはなりません。速度が制限を超えると、タイヤから発生する熱が大幅に増加し、パッチの効果がなくなり、タイヤがパンクする可能性があります。タイヤのサイドウォールが損傷した場合、または損傷部分が6mmを超える場合、タイヤを修復して再使用することはできません。 タイヤの空気圧と表面状態は、バイクの機能と安全性にとって非常に重要です。タイヤの空気圧と路面を定期的に点検してください。
--

定期保守点検

ヒューズとリレー



指定	説明
IGN-Relay	イグニッションスイッチリレーを示します
Horn-Relay	ホーンリレーを示します
Lamp-Relay	ランプリレーを示します
Fuel Pump-Relay	燃料ポンプリレーを示します
Fan-Relay	ファンリレーを表示します
Electric Spray-Relay	ECUリレーを表示します
Spare-Relay	予備リレーを表示します

指定	Amp.	説明
IGN-20A	20 A	イグニッションスイッチ電源
ECU BAT-10A	10 A	ECU電源
Meter-10A	10 A	計器照明およびUSBソケットへの電源供給
ABS MR-25A	25 A	ABSポンプハウジングへの電源供給
ABS VR-10A	10 A	ABSバルブ本体電源
Lamp-10A	10 A	ヘッドランプ電源
Fan-10A	10 A	ファン電源
Fuel Pump-10A	10 A	燃料ポンプ電源
ECU IGN-20A	20 A	ECU電源
Spare-10A	10 A	予備ヒューズを示します
Spare-15A	15 A	予備ヒューズを示します
Spare-15A	15 A	予備ヒューズを表示します
Spare-20A	20 A	予備ヒューズを表示します

警告

- 指定以外のヒューズを使用したり、ヒューズを使用せずに直接接続したりしないでください。 そうしないと、電気システムに重大な影響を及ぼし、火災、バイクの焼損、エンジン出力の喪失などの原因となる可能性があります。
- 交換用ヒューズと交換した後もヒューズが損傷している場合、これは電気システムの故障を示しているため、バイクを直ちにサービス代理店に点検してもらう必要があります。

トラブルシューティング



トラブルシューティングのコンテンツは、一般的な問題の原因を見つけるのに役立ちます。

警告

不適切なメンテナンスや調整はバイクに損傷を与えたり、故障の原因を特定することが困難になります。このような損傷は3つの保証(修理、交換、返品)の対象外となります。バイクの正しい操作方法に不安がある場合は、当社指定の修理業者にご相談ください。トラブルシューティングの前に、まず当社指定の修理工場にご相談ください。ワークショップはあなたの悩みを解決します。

エンジンが始動しない場合は、以下の確認を行って原因を特定してください。


点火系の検査

1. 点火プラグを取り外し、点火プラグコネクタを接続します。
2. スパークプラグをエンジンに挿入します。イグニッションスイッチを「」の位置に回し、モーター停止スイッチを「」の位置に設定します。ギアをニュートラル位置に入れ、クラッチを放します(クラッチレバーをしっかりと握ります)。スタートボタンを押します。点火システムが正常に動作すると、点火プラグの電極間に青い火花が発生します。火花が出ない場合は、当社指定の修理工場に修理をご依頼ください。

警告

- 点火プラグ穴付近に点火プラグを装着して上記点検を行うと、火花によりシリンダー内の可燃混合気が引火する恐れがありますので行わないでください。感電の危険を軽減するには、スパークプラグハウジングの金属部分をエンジンハウジングの塗装されていない金属部分の近くに配置することをお勧めします。事故の原因となる感電の可能性を避けるため、心臓病やペースメーカーを装着されている方は検査を行わないでください。

モーターが作動しない

1. 燃料タンクに十分な燃料があることを確認してください。
2. シンボル  が表示されている場合は、システムに問題があることを意味します。当社指定の修理工場へお送りください。表示の意味は、ECU診断インターフェイスの内容から説明できます。
3. 点火システムが正常に動作しているかどうかを確認してください。
4. アイドリング回転数を確認してください。正しいアイドル速度は 1.000 ± 100 rpm です。

保管

バイクをしばらく使用しておらず、特別なメンテナンスが必要な場合は、特別な材料、機器、技術が必要です。メンテナンスは当社指定工場にご依頼されることをお勧めします。ご自身でメンテナンスを行う場合は、以下の手順で行ってください：

バイク

バイクを徹底的に掃除します。バイクを平らな場所にサイドスタンドを立てて駐車します。ハンドルを左に切ってフロントをロックし、キーを抜きます。

燃料

サイフォンまたはその他の適切な方法を使用して、燃料タンクから燃料を適切な容器に排出します。

モーター

1. 点火プラグを取り外し、各点火プラグ穴にスプーン一杯の新しいオイルを充填し、点火プラグを再度挿入してエンジンのクランクシャフトを数回回転させます。
2. エンジンオイルを完全に抜き、新しいオイルをクランクケースに注入します。
3. エアフィルターの吸気口とマフラーの排気口を新油を含ませた布などで覆い、湿気が入らないようにしてください。

バッテリー

1. 「バッテリー」セクションの説明に従ってバッテリーを取り外します。
2. バッテリーの表面を中性石鹼水で洗浄し、端子やケーブル接続部の錆や腐食を取り除きます。
3. バッテリーは0°C以上の部屋に保管してください。

タイヤ

タイヤの空気圧を指定空気圧に設定します。

バイクの表面

- 樹脂・ゴム部品の表面にゴム保護剤をスプレーします。
- 表面処理をしていない部品の表面には防錆塗料をスプレーしてください。
- 塗装面をカーワックスでコーティングします。

保管時のメンテナンス

月に一度バッテリーを充電してください。標準充電方法：0.1C で8～10時間。

保管後のバイクの使用

1. バイクを徹底的に掃除します。
2. エアフィルター入口開口部とマフラー出口開口部を覆っている布を取り除きます。
3. エンジンオイルを抜きます。本書の指示に従って、オイルフィルターを交換し、新しいエンジンオイルを充填してください。
4. 点火プラグを取り外します。エンジンを数回かけて動かします。スパークプラグを交換してください。
5. 「バッテリー」セクションの説明に従ってバッテリーを再取り付けします。
6. バイクに適切に潤滑されていることを確認してください。
7. 「起動前の確認」セクションに記載されている確認を実行してください。
8. このセクションの指定に従ってバイクを始動します。

防錆

バイクを注意深くメンテナンスし、錆び防止に注意を払い、何年経ってもバイクが新車のように見えるようにします。

錆びの発生に関する注意点

錆による損傷を引き起こす要因：

- 塩分の多い道路、汚れ、湿気、化学薬品による塩分の蓄積。
- 小さな石や砂利による塗装部品の表面の損傷、または衝撃や傷による損傷。
- 塩辛い道路、潮風、産業汚染、高湿度は錆の原因となる可能性があります。

錆びを防ぐには

少なくとも月に一度はバイクを洗ってください。バイクをできるだけ清潔で乾燥した状態に保ってください。

- バイクの表面の汚れを取り除きます。塩辛い道路、化学薬品、アスファルト、樹液、鳥の糞、産業排気ガスはバイクに損傷を与える可能性があるため、できるだけ早く汚れを取り除いてください。バイクを水で洗浄するのが難しい場合は、洗浄剤を使用して洗浄できますが、洗浄剤の要件に従う必要があります。
- 損傷があればできるだけ早く修理してください。バイクの塗装表面の損傷を注意深く検査してください。バリや傷を見つけた場合は、さらなる損傷を防ぐためにすぐに取り除いてください。バリや傷が全面に及ぶ場合は当社指定工場での修理をご依頼ください。
- バイクを乾燥した換気の良い場所に駐車してください。バイクを頻繁に掃除してガレージに駐車すると、ガレージは非常に湿気が高くなります。湿度が高いと錆が発生しやすくなります。換気が悪いと、たとえ高温でも濡れたバイクが錆びてしまいます。
- バイクにカバーをかけます。日光は塗装やプラスチック部品の変色、計器の色の退色を引き起こすため、バイクを真昼の太陽から保護してください。高品質の通気性のあるカバーを使用すると、バイクを太陽光の紫外線から保護し、バイク上の汚れや大気汚染物質の蓄積を減らすことができます。当社のディーラーは、あなたのバイクに適したカバーの選択をお手伝いします。

クリーニング**バイクの洗車**

次の手順に従ってバイクを洗ってください：

1. バイクの表面についた汚れや泥を冷水で洗い流してください。バイクの掃除には柔らかいスポンジやブラシを使用できます。硬い素材を使用すると光学部品に傷がつきます。
2. 中性洗剤またはカーソープ、ガーゼまたは柔らかい布でバイクをよく洗ってください。ガーゼや柔らかい布は頻繁に洗剤に浸してください。

注意

塩害のある道路や海辺でバイクを使用した場合は、使用後すぐに冷水で洗ってください。熱湯は腐食を促進するため、必ず冷水を使用してください。

以下の箇所への水の流入を防ぐため、バイクへのスプレーは避けてください：

- 点火スイッチ
- スパークプラグ
- 燃料タンクキャップ
- 燃料噴射システム
- ブレーキ液リザーバー

警告

コインワッシャーからの高圧水はバイクに損傷を与えるだけでなく、錆、腐食、摩耗の促進を引き起こす可能性があります。パーツワッシャーはバイクを損傷する可能性があります。バイクを高圧水で洗わないでください。スロットルボディやフューエルインジェクターの洗浄にはパーツウォッシャーを使用しないでください。

3. バイク表面の汚れを落とした後、残った洗剤を流水で洗い流してください。
4. 十分に洗い流した後、湿らせた柔らかい革や布でバイクを拭き、日陰で乾燥させてください。
5. 塗装面の損傷を注意深く検査してください。損傷がある場合は、次の手順で損傷した表面を補修材で補修してください。
 - a. 損傷した部分を洗い、乾燥させます。
 - b. 補修材を混ぜて、傷がついた箇所にブラシで丁寧に塗布していきます。
 - c. 補修箇所を十分に乾燥させてください。

注意

バイクの洗車後やにわか雨の後、バイクを運転すると、ヘッドライト内に水ミストが発生します。ヘッドライトを点灯すると徐々にミストが消えます。バッテリーの過放電を避けるため、エンジンを始動する前にヘッドライトのスイッチを入れてミストを除去してください。

警告

バイクをアルカリ性または酸性の洗剤で洗わないでください。バイクを損傷する可能性のあるガソリン、ブレーキ液、その他の溶剤は使用しないでください。バイクは柔らかい布と中性洗剤を溶かしたぬるま湯で洗ってください。

お手入れと保管

ワックスがけと清掃後は、バイクにワックスをかけることをお勧めします。これにより、部品を保護するだけでなく、より美しくなります。

- 高品質のカーワックスとポリッシュを使用してください。
- カーワックスおよびポリッシュ製品の使用に関する注意事項に従ってください。

掃除後のチェック

バイクの寿命を延ばすために、「潤滑」セクションに記載されているように潤滑してください。

警告

コインワッシャーからの高圧水はバイクに損傷を与えるだけでなく、錆、腐食、摩耗の促進を引き起こす可能性があります。パーツワッシャーはバイクを損傷する可能性があります。バイクを高圧水で洗わないでください。スロットルボディやフューエルインジェクターの洗浄にはパーツワッシャーを使用しないでください。

ご使用後に問題が発生しないか、「ご使用前の確認」を参照してご確認ください。

輸送

燃料は可燃性が高く、特定の条件下では爆発を引き起こす可能性があるため、バイクを輸送する前に燃料を排出する必要があります。燃料の排出、保管、補充は、エンジンを停止した後、火気のない換気の良い場所で行ってください。燃料を排出するときは、次の手順に従う必要があります。

1. エンジンを停止し、イグニッションスイッチキーを抜きます。
2. サイフォンまたはその他の適切な方法を使用して、燃料タンクから燃料を適切な容器に排出します。

警告

- バイクを輸送する前に、燃料タンク内の燃料を完全に抜いてください。
- オイル漏れを防ぐため、輸送中はバイクを通常の動作状態に保ってください。

バッテリーの使用方法

1. 新しい電池を使用する

- 1.1 電池の外観を確認し、電池ケースに傷や亀裂がないか、電池蓋の緩みや端子の曲がりや変形がないかを確認してください。
2. 入れる
 - 2.1 最初にプラス (+) ケーブル (赤いケーブル) を接続し、次にプラス (-) ケーブルを接続します。極を逆にしないように注意してください。逆にすると、制御された整流器やその他の電気部品が損傷します。
 - 2.2 錆による接触不良を防ぐため、ボルトを締めた後、ボルト、ナット、クランプ部分にバターまたはワセリンを塗布してください。

3. 使用とメンテナンス

- 3.1 開始時間は一度に5秒を超えてはなりません。何度試してもエンジンが始動しない場合は、燃料供給、始動システム、点火を確認してください。
- 3.2 以下のような状況では、バッテリーが過放電または過放電し、バッテリーの寿命が短くなります。
 - a. 頻繁な電気始動と短い走行距離。
 - b. 低速で長時間運転する。
 - c. 走行中はブレーキレバーを握り、ブレーキライトが常に点灯するようにしてください。
 - d. 追加の電気アクセサリを取り付けるか、より高いワット数の電球と交換してください。
- 3.3 スターターの速度が低下し、ライトが暗くなり、ホーン音が停止したら、すぐに充電してください。
- 3.4 バイクを長期間使用しない場合は、保管前と保管後は月に一度はバッテリーを充電してください。

4. リチャージ

- 4.1 バイクバッテリー専用の充電器をご使用ください。充電中はバッテリーカバーを取り外さないでください。充電中は周囲の換気をよくし、火気を避けてください。
- 4.2 充電方法には標準充電と急速充電があります。緊急時を除き、バッテリーの寿命を延ばすために標準充電を使用するようにしてください。

5. 予防

- 5.1 決して電池カバーを外したり、電解液や水を加えたりしないでください。
- 5.2 バッテリーの使用中または充電中は火の近くに立たないでください。バッテリーの爆発を防ぐため、プラス端子とマイナス端子をショートさせたり、プラス端子とマイナス端子を切り離したりしないでください。
- 5.3 電解液には強酸が含まれているため、皮膚や衣服にこぼしたり、目に入らないように注意してください。接触した場合は、すぐに起き上がり、多量の水で病院に行ってください。誤って飲み込んだ場合はすぐに病院へ行ってください。
- 5.4 電解液は子供の手の届かないところに保管してください。
- 5.5 追加の盗難警報システムを設置すると、バッテリーに一定の影響があります。弊社推奨の防犯警報装置の使用をお勧めします。他の警報システムを使用すると、回路の誤動作を引き起こしたり、バッテリー、調整整流器、その他の電気部品に損傷を与えたりする可能性があります。

技術仕様

寸法	
長さ	2.180 mm
幅	800 mm (860 mm)
高さ	1.115 mm (1.155 mm)
ホイールベース	1.450 mm
シート高	800 mm
重量	
Tare weight (走行可能状態)	235 kg
最大許容総重量	455 kg
最大許容重量 - フロントアクスル	172 kg
最大許容重量 - リアアクスル	283 kg
最大積載量	220 kg
エンジン	
気筒数	2
シリンダー配置	垂直
排気量	1,222 cm ³
ボア・ストローク	98.6 mm x 80 mm
圧縮	10:1
シリンダーの番号付け	左から右へ
連続気筒番号	1-2
Firing order	1-2
始動システム	電動スターター
最大出力	61 kW @ 6.550 min-1
最大トルク	108 Nm @ 3.100 min-1
パワーウェイトレシオ	0,26 kW/kg
点火システム	
点火システム	デジタル誘導型
スパークプラグの種類	NGK LMAR8A-9
電極ギャップ	0,9 mm +/- 0,1 mm
燃料システム	
燃料タイプ	RON/ROZ min. 95 (lead-free)
インジェクション	電子燃料噴射装置
燃料ポンプ	Submersible pump, electronic

ギアボックスとクラッチ		
ギアボックスの種類	マニュアル6速ギアボックス	
ギア比	1速	4,396
	2速	3,143
	3速	2,325
	4速	1,860
	5速	1,629
	6速	1,473
アクスルレシオ	2,412	
カップリングタイプ	オイルバス内多板クラッチ	
液体および潤滑剤		
エンジンオイル仕様	半合成または全合成バイク エンジンオイル - 10W/40	
潤滑システム	ウェットサンプ潤滑	
冷却システム	水冷式	
水/クーラント比	プレミックスしていない場合は 50/50!	
サーモスタットが測れる温度	88°C +/- 2°C	
クーラント組成	水酸化エチル: 85% 添加物: 10% 水: 5%	
ホイール&タイヤ		
フロントタイヤ	Opt.1: 100/90-18 M/C 56H	Opt.4: 110/80-R18 M/C 58H
	Opt.2: 100/90-18 M/C 56H	Opt.5: 110/80-ZR18 M/C 58W
	Opt.3: 110/80-R18 M/C 58H	Opt.6: 110/80-ZR18 M/C 58W
リアタイヤ	Opt.1: 150/70R17 M/C 69H	Opt.4: 160/60-ZR17 M/C 69W
	Opt.2: 160/60ZR17 M/C 69W	Opt.5: 150/70-R17 M/C 69H
	Opt.3: 150/70R17 M/C 69H	Opt.6: 160/60-ZR17 M/C 69W
フロントリム	MT2,50 x 18	
リアリム	MT4,25 x 17	
フロントとリアのタイヤ空気圧	2,2 - 2,5 bar	
シャーシとサスペンション		
フレームタイプ	鋼管フレーム	
フロントサスペンション	テレスコピックサスペンションフォーク (最大: 815,8 mm / 最小: 694 mm)	
リアサスペンション	2つの高さ調整可能なショックアブソーバー (最大: 349mm / 最小: 262mm)	

技術仕様

ブレーキシステム	
フロントブレーキ	ダブルディスク:φ 310 mm 2 x 2-コルベンプレムザンゲ
リアブレーキ	プレムシャイベ:φ 260 mm 2 ピストン ブレーキキャリパー
補助システム	ABS
ブレーキフルード仕様	DOT 4

電気	
システム電圧	12V
バッテリー	12V 12Ah (~4,6 kg)
インジケータ	LED: 12V / 1W
ロービーム	LED: 12V / 15W
ハイビーム	LED: 12V / 30W
デイトタイムランニングライト	LED: 12V / 15/4,6W
リアライト	9 x LEDs: 12V / 3,7W
ブレーキライト	10 x LEDs: 12V / 3,7W
ナンバープレート灯	12V 0,6W

走行性能	
排出ガス基準	EURO 5
定常ノイズ	89 dB(A) @ 3.275 min-1
運転音	76 dB(A)
トップスピード	198 km/h
燃費	4,6 l/100km
CO2排出量	105 g/km
座席定員	2
最大勾配	≥30°
ターニングサークル	~ 5 m
燃料タンク容量	16 l

Dotted lines for writing notes.

